

金光学園

# やっなみ

2015.12





# 体育会

# ほつまつ祭



## 生物部

中高合わせて約30名の部員があり、学校近くの遙照山とその周辺をフィールドに屋内外で活動している。頻繁に遙照山や里見川などへ歩いて出掛け、金光町の植物相や昆虫相の記録をとったり、種の同定をしたりしている。出てくる昆虫、感じられる空気の種類、木々をつける葉の変化など季節によって発見がたくさんあり、いつも自然に魅了されている。珍しい絶滅危惧種なども発見し、遙照山が大変貴重な生物資源を持っていることも分かっていた。日頃の活動の成果をまとめて、ほつま祭などで発表している。国際化発表会では、英語での発表に挑戦し、標本や写真など自分達で採集したのを見せると多くの人が興味を持ってくれ、科学の興味に国籍は関係ないことを実感した。夏の合宿では、県北の山々の環境相など、普段の活動では見られない自然を知ることが目的に様々なところで活動している。今後もこつこつと地元を自然を記録し続け、環境相の変化をまとめ、さまざまなお知らせへ発信していきたいと思っている。



## ラグビー部

現在、2年生6人、1年生6人、マネージャー3人で活動している。3年生引退後は部員不足のために他校と合同チームを組んで公式試合に参加する状態が続いていたが、秋が深まる頃、新たに中学3年生の部員5人、マネージャー3人を迎えた。新年度からは再び学園単独チームで試合に出場できそうである。

ラグビー部は文武両道を

を目指して日々活動しているが、キャプテンを中心に生徒が自分たちでメニューを考え、主体的かつ自立した練習を行っている。その成果として、今年度は3年生の石井祐次郎が岡山県代表選手に選ばれた。また、毎年複数の部員がU・16・17県選抜選手に選ばれている。記憶に新しいワールドカップにおける日本代表の活躍により、にわかにラグビーが注目を浴びている。金光学園ラグビー部においても、この追い風を受けてさらに部員を増やし、40年ぶりに中国大会出場を果たした平成25年度と同様、栄光目指して頑張っていきたい。



# 部活動紹介

## 日々感謝

松本 万由美

16年前、私は切迫早産で1か月入院し、自然分娩で出産しました。約2か月の早産で、子供は極低体重児でした。極低体重児とは、1500g未満で産まれた子供の事です。子供はNICUに約2か月入院し、元気に退院することができました。

産まれた時は、普通に産まれた赤ちゃんと思って、とても小さく、体の色も少し違っていましたが、無事に産まれてきた喜びと、こんなに小さな子供が無事に大きく成長してくれるのか、という不安で一杯でした。最初は母乳も1ccからだったので、我が子を抱っこしながら、この子は1500gまで大きくなるのかなあという不安ばかり大きくなっていきました。その不安とは逆に、とても元気で、すぐにお腹が減って泣き、私が冷凍した母乳を持って行くと、よく担当の先生や看護師さんに抱っこされていました。週1回の過酷な目の検査や色々な処置をしていただき、約2か月後、無事に元気に退院することができました。

退院後、極低体重児の会に参加させてもらうことになりました。たくさんのお友達がいて、私だけじゃなかったんだと、少し元気が出ました。会の方たちとお話をしていくと、目の前で元気に遊んでいる子供達も、産まれてすぐに心臓や目の手術をしたり、大変な体験をしていました。お母さん方はとても明るく前向きで、色々悩んでいた私は本当に救われました。小学校低学年までは、体も小さく、成長も遅かったけれど、何となく元気に成長しました。高学年になると、反抗期に入り、腹が立つこともたくさんありますが、何より元気で学校に通い、好きなことを思いっきり出来ていることを大変嬉しく思います。今は部活や大好きなスポーツを頑張っている子供の姿を見ながら、私の方が元気をもらっています。

産まれた時には、あまりの小ささに心配して、祖母、母が近所の神社やお寺に毎日毎日お参りに行ってくれました。これまでも何となく元気に成長出来たのは、神仏様のお蔭、たくさんの方々のお蔭だと、日々感謝しております。そして、元気に金光学園に通っていることを大変嬉しく思います。

(金光学園やつなみ保護者会 副会長)

## 目次

巻頭言.....	1
金光学園創立121年記念式道(13).....	2
活躍する卒業生.....高淵 直美	10
やつなみ保護者会のページ	12
やつなみ保護者会研修旅行	14
会報.....	15
友愛セールの御礼	16
学園随想(7).....森谷 英子	17
探究授業報告	18
メタセコイヤ	20
ある日のホームルーム	22
活躍おめでとう	25
東京研修旅行	26
SSH宿泊研修記	32
高2修学旅行	34
国際化教育推進委員会	38
韓国・春川女子高等学校第6回姉妹校交流.....	48
ほつま祭.....	50
中学生体育会.....	53
生徒入賞作品.....	60
生徒会活動.....	63
学園だより.....	76
教室の窓から.....編集後記	80

# 金光学園創立121年記念式



金光学園創立121年記念式が、11月13日、厳かに挙行された。曇り空の中、朝8時15分、校長と生徒代表（高3佐藤武夫君、中3松前彩華さん）が本部広前に参拝し、教主金光様にお礼のお届けをした。8時35分、全校生徒、教職員揃って本部会堂前より参拝し、その後、教団墓地と初代校長の頌徳碑を巡拝して帰校した。

ほつま体育館に、31名のご来賓をお迎えし、金光学園中学・高等学校の生徒1240名、教職員が一堂に会し、10時に音楽部吹奏楽団と音楽部コーラスによる「神人の栄光」の演奏で祭事が始まった。まず、感謝祭が行われ、学校法人金光学園理事長の祭詞に始まり、各代表より玉串が奉奠された。

式典では、25年勤続の山本澄枝教諭、石井浩一中事務次長、山口洋子事務職員、石井知美事務職員がそれぞれ表彰を受けた。続いて校長式辞、金光教務総長祝辞、生徒代表の所願表明の後、学園歌斉唱で式典



式 辞  
校長 金光 道晴

は締めくくられた。休憩の後、11時30分から木村正明氏（フアジアーノ岡山代表）より記念講演をいただいた。演題は「岡山に、恋をしよう」。大胆かつ軽妙な語り口で生徒の心をとらえ、サッカーを通じて故郷への熱い想いを熱心に語られた。その後、13時20ごろほつま体育館で全教職員の記念写真を撮影した。

立冬も過ぎ、暦の上では冬を迎えたとのことですが、今県内ではあちこちの紅葉のたよりが聞かれています。穏やかな晩秋の今日のよき日に、こうして金光学園創立121年の記念式を挙行させていただきますことは、誠にありがたく嬉しいことでもあります。

ご来賓の皆様には本日は公私ともご多用の中、ご臨席を賜り誠にありがとうございます。平素から金光学園教育にお祈り添えをいただいておりますことも合わせ、心から御礼申し上げます。

今朝ほどは、創立記念式に先立ち、生徒・教職員そろって金光教本部広前に御礼の参拝をさせていただき、さらに木綿崎山の教団墓地や、初代校長佐藤範雄先生の頌徳碑を巡拝して、先ほど帰校してまいりました。

さて、皆さんはこの写真のお2人は誰だか、おわかりでしょうか。

皆さんから向かって左側の、長い髭をたくわえられている方はわかる人も多いと思います。初代校長佐藤範雄先生であります。右側の方は中川仲蔵という方

今日は初めに先程参拝をした初代校長佐藤範雄先生の頌徳碑についてお話しさせていただきます。頌徳とは徳をほめたたえるという意味ですが、あの頌徳碑は、昭和6年（1931年）初代校長が既に校長を辞されて後の76歳の時に、当時金光学園があったすぐ東の木綿崎山南に、近隣の教育関係者の発議で建てられたものであります。高さ6メートルもある石に、「佐藤範雄先生頌徳之碑」と大きく文字が彫られています。

その時に詠まれた歌が次のような歌であります。「あふぎ見る 神のみいつのみかげ石 吾魂とはここにとどめむ」意味は、「仰ぎ見るような神様のご威光の御影石 私の魂を永久にここにとどめよう」と言う意味であります。

身があふれる思いを歌にされたのであります。つまり、この歌は学

問の必要性を説かれ、学校の設立を目指し、世のお役に立つ人材の育成を願い続けられた、



その吾魂（心）をここにとどめんと、詠まれたものであります。後に、初代校長の教え子であった卒業生が卒業50年の記念にと、頌徳碑の前に歌碑として建てられたのがこの歌であります。そのような初代校長の願いや建学の精神が込められている石碑や歌碑であります。

昨年は創立120年の年を麗しく迎えることができ、そして、今年121年の新たなスタートを切り、今日麗しくその誕生日を迎えさせて頂いているのであります。誠に有り難いことでもあります。皆さんにもそのような思いで、今日の式典に臨んで頂ければと思います。

さて、私はこの創立記念式では毎年、学園の歴史を振り返ってのお話をさせて

いただいておりますが、今日はこの右側の写真の中川仲蔵さんという方のお話しをさせていただきますと思います。この方は私達の大先輩であります。名前を聞いたことがある人も多いと思います。学園の中川奨学金を設立された方でありま

す。亡くなられたのは昭和天皇が崩御されたその日、つまり、昭和64年の昭和の最後の日となった1月7日に90歳で亡くなられました。この写真は87歳の時の写真であります。

中川さんは、金光学園（当時の金光中学）を卒業され、現在の一ツ橋大学（当時の東京商科大学校高等専門部）に進まれ、卒業後は古河電工や日本軽金属などに勤められ、やがて、日本軽金属の副社長、日軽アルミの社長、そして会長を歴任された方でありま

す。昭和60年（1985年、30年前のこと）86歳の時に母校金光学園に多額の寄付をいただき、中川教育振興基金を設立していただいたのであります。

中川さんが金光学園に入学したのは、大正6年（1917年）のことでありま

すが、何と数え年、18歳で本校の中学2年生に編入学し、22歳で金光中学を卒業されたのであります。つまり同じ年齢の人より、4年も5年も遅れて中学校に入

学され、卒業されたのであります。なぜでしょうか。実は大変な苦勞をな

された方なのであります。中川さんは、生まれは玉島で、良寛さんで有名な玉島の円通寺にあつた尋常小学校に通い、卒業後は、家計を助け、病に倒れたお父さんの薬代を稼ぐために、玉島の新聞販売店に住み込みで働くようになります。毎月わずか5円の月給の中から、小遣いは一銭も使わず、自分の勉強のための教科書代と父の薬代を出しておったそうでありま

す。しかし、そのお父さんも中川さんが17歳の時に亡くなれましたが、その後金光学園に入学され、22歳で卒業するまで、住み込みで新聞配達をし、大変な苦学されながら学校に通ったのであります。

毎朝、2時に起きて自転車で、玉島から当時急行列車が停まる鴨方駅まで、大阪から送られてくる新聞を取りに行っ

て、玉島に持ち帰り、これを整理して配

達人に渡し、自分も玉島の町内や乙島などの配達を

し終えて、それから学校へ通って勉強をしたというのであります。毎日30キロは自転車に乗っていたそうでありま

す。大変貧乏な中、苦学をしながら金光学園（当時の金光中学）を卒業しますが、自分が今あるのは、金光学園で学んだおかげと感謝し、その恩に報いたいと母校に中川奨学金基金を設立されたのであります。

昭和62年（1987年）88歳の時、学園の体育会にお出でいただき、その開会式で当時の加賀道郎校長先生と並んで、



壇上に立たれ、次のように挨拶をされました。

「本日は体育会、誠におめでとうござい

ます。先ほどから入場行進を拝見いたしました。70年前に私どもの若々しく壮大に行つた運動会を目の当たりで見ると、なんとも言えない感激に浸っています。私はもうすぐ90歳になります。19世紀の終わり1899年生まれです。20・21世紀にわたること

を念願してこの道を今、一生懸命走っています。皆様もどうかご健在で、はつらつとして、21世紀に向かつて前進されんことを希い願ひまして、ご挨拶いたします。



て遊びぬ」

「行進する生徒より挙手の礼を受く校長と共に壇上に立ちて」

「中川基金を受けたる生徒がつぎつぎに挨拶をする姿のものし」

「古里の母校の心有難さしみじみ知りてわれはなごみぬ」

その中川仲蔵さんが生涯大切にされた2つの言葉があります。1つは「運・鈍・根」という言葉で、鉱山王

とよばれた古川財閥の創業者古川市兵衛という方の言葉です。

人間には必ず「運」（すなわちチャンス）が訪れる。一生のうち3回はめぐってくる。その運は来たらずと捕まえないと逃げてしまう。それを捕まえるのは、本人の心構えと準備が大切であるということ。

「鈍」は、鈍いと書くが、バカという意味ではない。10知っていても6か7か

で抑える。7くらいしか知らないのに10も知っているようなことを言っ

てはいかん。出しゃばらないこと。才気にはしないことが大切であるということ。

「根」は根性や根気の根。根いっばい働く、努力する。正しいと思つたらどんな困難にぶちあたろうともやり通す。そんな土性骨の心意気を持つということ。

これが、中川さんの大切にされた「運・鈍・根」であります。

もう1つの座右の銘は金光教の三代金光様がおっしゃつた「にちにちがさら」という言葉です。「にちにちがさら」というのは「日々の改まりが大切である」ということですが、中川さんは毎日、毎日新たな気持ちで迎え、新たな気持ちで過ごしていくことをとても大切にされた方でありま

す。そして先にお話ししましたように、少年時代の大変苦しい、そして厳しい生活の中で、それを乗り越え、大きな業績を残されたのであります。

このような先人、先輩の方々がおられたこと。また多くの大切なものを残してくださっていること。さらには御霊様に

なられてからも、益々大きな働きをして  
くださっていることに、御礼を申し上げ、  
改めて初代校長や中川仲蔵さんをはじめ、  
先人の大きなお働きに感謝するとともに、  
その心や願いを、私たち生徒や教職員は  
共々にしっかりと受け継ぎ、表わしていかな  
ければなりません。今日の12年の創立記念  
式を新たな出発として、共々に頑張ってま  
いりましょう。

最後に合言葉を申し上げて式辞とさせていただきます。  
「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」

### 金光教務総長祝辞

岡成 敏正

本日は、創立120周年となる記念式を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

本学園の創立を振り返りますと、初代校長の佐藤範雄先生が、金光教の教祖である金光大神様にまみえられたことに始まります。先生が初めて教祖様のもとに参拝された時に「人を助ける身になれ」とのお言葉を受けられました。それ以来、足繁く教祖様のもとに参拝される中で、

次第に「人が助かるための学校」「世と人のお役に立つ人材が育つための学校」の必要性を感じられるようになりました。

そして、明治27年11月29日、本学園の前身である神道金光教会学園所が創設され、金光教の教えをもとに「学・徳・体」一体の全人教育を目指すこととなり、以来、今日まで、生徒一人ひとりの個性を大切にしつつ、「心の教育を土台にした人間教育」という教育方針のもとに学校教育が進められ、本日ここに、創立から120年の記念式を迎えられましたことは、私どもにとりまして、まことに感慨深いものがございます。

さて、金光教の教祖様は、「人の身が大事か、わが身が大事な人」とみ教えくださっております。

自分の都合のよいようになってほしいという思いは誰にでもあるものですが、



このみ教えは、果たしてそれだけでよいのか、ということをお私たちに静かに問いかけて下さっております。例えば、人間関係に苦しんだ時には、自分と相手との関係を冷静に見つめ直す機会を与えてくれるものもあると思います。

私たちは、天地のお働きの中で、生かされて生きております。あいよかけよで共に世話になり合い、共に生きている。喜びも悲しみも、楽しみも苦しみもそれぞれに持ちながら、共に生きております。

さらに申しますと、そこには、目には見えませんが、神様のお働きがあります。「人間が助からなければ、神も助からない」と言われるほどに深い思いをかけてくださる神様が、私たちの生命と生活を支えてくださっており、私たちと共に生きてくださっているのです。

教祖様は、「人が人を助けるのが人間である」とも仰せられています。

生きていく上には色々な問題に出あい、社会にも様々な難儀がありますが、お互いが、すべてを生かしてやまない天地のお働きの中に生かされている、神様のいとし子同士であるとの思いを胸に、それぞれの存在を認め、共に助かっていこうとすることが、現代という時代にあって、いよいよ大切であると感じております。

この「人の身が大事か、わが身が大事な人」という教えは、「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」という学園の合言葉ともつながるものだと思います。このような合言葉をもって、学園生活を進めていくことができるということは、ありがたいことであり、卒業後も自信をもって大切にしていただきたい言葉であると思



ます。

さて、皆様におかれましては、この度中学校男子バレー部が15年ぶりの全国大会出場を果たし、見事に予選リーグを勝ち上がり、高校野球部におかれましては秋の岡山県大会初優勝を成し遂げられるなど、それぞれにご活躍されておりますことは、すばらしいことであると思わせていただきます。

本日のこの記念式を機に、生徒、職員の皆様さら

に、生徒、職員の皆様さら

に、生徒、職員の皆様さら

### 所願表明

生徒代表 山中 勤輔



金光学園は今年で創立120年を迎えました。多くの先輩方が明治・大正・昭和・平成という激動の時代の中で今の金光学園の歴史と伝統を築いてくださいました。この創立記念式にあたって改めて感謝の気持ち湧いてきます。卒業された

先輩方は社会のあらゆる方面で活躍されており、後輩として誇りに感じています。

金光学園が創立されたのは日清戦争中の明治27年、その10年後、日露戦争中の明治37年に記念講堂が建てられました。そしてその10年後、今から100年前の第一次世界大戦には日本も参戦しました。その頃に活躍された先輩に茅原基治さんがいます。第一次世界大戦の終わりがころ、ロシアで革命がおこりました。この革命によってロシアは皇帝による政治が終わわり、世界で最初の社会主義国家であるソビエト連邦に変わりました。これに対し、国内では各地で反乱が起こり、また多くの国がこの革命政権を倒すために軍隊を派遣するという事態が数年続きました。この混乱を逃れて800人の子供たちがサンクトペテルブルクから日本海に面したウラジオストークに疎開しました。しかしそこにも内戦の危機が訪れます。その子供たちを救ったのが、勝田汽船会社の貨物船「陽明丸」の船長であった茅原基治さんです。茅原さんはアメリカ赤十字社の要請で子供たちをウラジオストークから救出し、太平洋・大西洋を3か月間航



海し、フィンランドまで送り届けました。そして、内戦の混乱が鎮まった後、800人の子供たちは無事故郷に帰ることができました。このとき助けられ方のお孫さんが「キャプテン・カヤハラ」と「ヨウメイマル」という名前だけを手掛かりに探され、ついに親族の方にたどり着き、茅原さんの親族の方と対面し、笠岡市にあるお墓に参られました。このニュースはテレビや新聞でも取り上げられました。茅原さんの勇気ある行動は90年忘れられることなく、またお孫さんは感謝の気持ちを持ち続けたのです。私はこの話を聞いて、人のために何か行動を起こすことの大切さを実感しました。

さて現在に目を向けてみると、今年も日本にとつてうれしいニュースがありました。10月4日にノーベル医学生理学賞に北里大学特別荣誉教授の大村智教授が

受賞しました。大村教授は静岡県のゴルフ場の土壌中で見つけた放線菌がアフリカや中南米地域を中心に多くの人々を苦しめてきた2つの病気に治療や予防の道を開くことを発見しました。その1つのオンコセルカ症は失明や視覚障害を引き起こす病気であり、また、リンパ系フィラリア症はリンパ系が障害を起し、皮膚の肥大化などが起こる病気です。どちらも全世界で何百万人も感染者があり、特に発展途上国が中心です。大村教授が放

線菌を使って作った治療薬「イベルメクチン」は副作用が少なく効果は絶大でした。そしてWHOが製薬会社から無償でこの薬の提供をうけ、アフリカなどに配布しました。この薬の登場によりこれまでに数億人以上の人々が救われており、2025年にはオンコセルカ症は撲滅するといわれています。大村教授はノーベル

賞を受賞するまでの道のりにおいてたくさん

さんの失敗をしました。大村教授は若い人たちに向けてこのようなメッセージを残しています。「最近感じることを失敗すると沈んでしまう子が多い。成功した人は誰よりも失敗した人。人まねでは人を超えることはできない。失敗を恐れる

な」。

私はこの言葉に強く心を打たれ、そして自分に当てはまると思いました。

私は中・高6年間少林寺拳法部に所属して活動してきました。入学した当初は今まで習ったことがなかったスポーツだったので何をするにも人一倍の努力が必要でした。そして大会に出るたびに何度も悔しい思いをし、自分の力の無さを思い知らされました。練習をしている時でも、次の大会でも失敗したらどうしようという弱い自分がいました。

## お届け

金光様、日々ご祈念いただきありがとうございます。私たちが金光学園中学・高等学校は、今年創立121年を迎えさせていただきます。

在校生一同、本日の創立記念式を心からお祝いさせて頂くとともに、学園生全員がこれからの金光学園発展に向けて、より一層努力していきますよう決意を新たにしたいと思います。

高校3年生におきましては、受験を間近に控え追い込みに入っておりますが、全学年それぞれに今、目標としている所に向かって取り組んでいくことができますよう、御取り次願います。

今後ともお祈り添えをくださいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。有難うございました。

生徒代表 佐藤 武夫

必要でした。そして大会に出るたびに何度も悔しい思いをし、自分の力の無さを思い知らされました。練習をしている時でも、次の大会でも失敗したらどうしようという弱い自分がいました。しかし年をかさねる毎に技がだんだん上達してきて自信が生まれ、最後の大会では中国大会へ出場することができました。

たくさんさんの失敗を経験して悔しい思いをし、次はもっと上位を目指そうと努力を続けたからこそ成功へ辿り着いたと思います。そして何より中学・高校で主将を務めさせていただいたことは技術はさることながら、私にとつて良い経験となりました。人をまとめる力が求められ、自分なりに悩み、精神的負担が大きい時期もありましたが、今になって思えば今後の私の人生において大変貴重なベースを作ってくださったように思います。支えてくれた先生方や部の仲間たちには感謝の気持ちでいっぱいです。この経験は社会に出てからも大いに活かせると思っています。難しい問題に直面した時、最初から諦めるのではなくとにかく立ち向かっていき、大村教授のように失敗を恐れず少しでも世界に役に立つ人材、周りで困っている人がいれば手を差し伸べる事が出来る人になりたいと思います。最後にになりましたが、金光学園のさらなる発展を願ひ所願表明とさせていただきます。

# 道 (13)

金光 道晴

## 「プラス思考 ポジティブな考え」

この原稿は、11月の末になって書いています。今年も残すところ1ヵ月余りとなりました。この秋は暖かい日がずっと続いていましたが、今日は一気が冬が来たという感じですが。

今年も沢山の方々の素晴らしいお話（講演）を聴かせていただくことができ、私自身も大きな元気を頂き、大変勉強にもなり、誠に有り難いことでした。講師の先生方は職業も年齢も、お話の内容や話し方なども全く違うのですが、全ての方に共通点があるのです。その言い方や表現は違っても、標題にあるように、例外なく物事をプラスに受け止める考え方・ポジティブな考え方について話されているということです。プラスの反対はマイナス、ポジティブの反対はネガティブでありますが、マイナス思考やネガティブな考え方を話された方は一人もいません。

金光教の前教主金光鑑太郎様のお歌に「ここまででは出来たとよるこぶべきことを これしか出来ぬといひてなげくか」というお歌があります。正にマイナス思考を戒められている歌であります。

今年の6月だったと思いますが、中国学園学長の松畑照一先生のお話を聴かせていただきました。そのお話の中で、「自

分は75歳になり、後期高齢者の仲間入りをしている。人生の下り坂の終焉に近づいていると考える人もいると思うが、自分はそのとは思っていない。下り坂は振り向くだけで上り坂になる。死は生の完成であり、今自分は完成に向かって進んでいる。120歳を目指して日々前向きに、元気に仕事をし、生活している」と話されていました。コップに水が半分入っている時のとらえ方も「ハーフエンプティ（半分空）」ととらえるか、「ハーフフル（半分一杯）」と考えるかは大きな違いだと言われているのであります。

今日、私は中学3年生の読書会に、助言者として参加させてもらいました。私のグループの本は104歳の現役のお医者さん、日野原明先生が97歳の時に書かれた「道は必ずどこかに続く」という本であります。日野原先生は「自分の学生時代にたらいつらい闘病生活を体験したからこそ、今の自分がある。悲観的にしか物事をとらえられなかったつらく苦しい体験があったからこそ、患者さんの気持ちがわかる医者になれた」と言われ、「つらい体験こそ自分を成長させる」と若者を激励されています。

今年105歳で陸上競技のマスターズの大会で100M走と砲丸投げの世界記録を打ち立て、ギネスブックに登録された宮崎秀吉さんは、なんと93歳から陸上競技を始めたそうですが、「スポーツが私の心を変えた」と言われます。そんなポジティブな生き方をされているお年寄りを見ると、何かこちらまで元気をもらえるような気持ちになります。

今月、私は3人の方の講演を聴かせていただく機会を得ました。3人に共通する内容は、プラス思考・ポジティブな考

え方でした。その1人は岩崎由純さんで、「心に響くコミュニケーションセッション ペップトーク」やる気を引き出す魔法の言葉」というお話でした。ペップ（PEP）とは元気とか活力という意味の英語ですが、スポーツなどで大事な試合に臨む直前に、監督やコーチや主将が選手達に語る激励の言葉には、やる気を引き出す魔法の言葉があるそうです。正にペップトークであります。多くの実例が紹介されましたが、例えば2011年の女子サッカーのワールドカップで米国の決勝戦のPK戦直前に、佐々木監督が選手に「東日本大震災復興支援のために頑張れ」、「思いっきり楽しんでい」と言ってグラウンドへ送り出し、世界一に輝いたのです。

スケートの羽生結弦選手が、ソチオリンピックで金メダルをとるようになった競技の直前に、リンクの中央で独り言のように、自分自身に語った「OK、さあ楽しもう」という言葉なども紹介されていました。「ミスするな。失敗するな」というような否定的な言葉ではなく、ポジティブな言葉で、元気や勇気を与えたというのであります。

私達は家庭でも学校でも、子供や生徒に向かって、「ダメダメ」とか「そんなことも出来ないの」など、つい否定的な言い方をしてします。親や教師は子供達に、前向きに元気になる言葉で伝え、指導することが大切であると思うのであります。

2人目は、今年の創立100年の記念式に講演をしていただいたファジアーノの木村正明代表です。中1から高3までの全生徒を対象に話していただきましたが、「岡山に恋しよう」という演題からわかるように、郷土岡山に対する熱い思いを話してくださいました。東京大学出身で、将来を約束されて

いる外資系の会社を辞め、無報酬でサッカーの弱小チームの代表になり、夢を持ってその経営にあたられているのであります。その姿勢に大きな感動を覚えたのは私だけではないと思います。講演の内容も正にポジティブであり、生徒達も元気をいただいたのであります。

3人目は学園の卒業生で、現在岡山県の経済同友会代表の萩原邦章さんです。「企業が求めるグローバル人材」について話してくださいましたが、ご自身の経営されている会社では、岡山弁で言う「おもしろえ すぐやってみよう」という言葉をキャッチフレーズにしているそうです。パイオニア精神や常時ポジティブシンキングを大切にすることなど、一部上場の企業に成長させる過程の中の様々な取り組みを聴かせていただきました。

昨年の創立100年の記念式にお招きしたパラリンピアン佐藤真海さんは、「大切なものは失ったものではなく、今残されているもの」と言われ、3年前にお出でいただいたJAXAのハヤブサのプロジェクトマネージャーの川口淳一郎さんは、できない理由をさがすのではなく、「できる理由」を見つけて挑戦することの大切さを話されました。これらに全て共通するのはプラス思考・ポジティブな考え方でありました。

今、教育の場では「アクティブラーニング」という言葉が盛んに使われています。文部科学省は「主体的、協働的な学習」とか「主体性を持って多様な人々と協力して学ぶこと」などという説明をしています。学問や学校生活はアクティブなものでなければなりません。全てにアクティブに、ポジティブに、そしてプラス思考で取り組んでまいりたいと思います。





# やつなみ保護者会のページ

## 中学体育会

### 中3 保護者

好天に恵まれ行われた体育会。大きなマスコットがクラスカラーを強調する様に並びます。競技だけでなく兄弟学級への懸命な応援も続きます。応援団長、チアリーダーを中心に3年生は力強く、2年生は工夫をし、1年生は少し恥ずかしそう。きつと来年は1年生も思い切り応援出来る事でしょう。

準備を進める中で、3年生の責任を経験した息子は、「今までは3年生に頼ってばかりだった！3年生は偉大だ！」と今までの2年間を反省した様子でした。行事の中で多くのことを経験し、気持ち成長する学園生。先輩から後輩へ受け継いで行く学園の歴史をこれからも大切にしたいと思っています。

マスコット・衣装・ダンス・組旗・どれも各クラスが工夫した素晴らしいもの

でした。保護者は子供の成長を感じ生徒達は達成感を味わう事が出来た体育会でした。そして勿論、今年の3年生も偉大でした！

## 中学体育会

### 中3 保護者

10月3日、わが子にとって中学校最後の体育会、晴天に恵まれた下での開催に感謝しながら観戦しました。

音楽部吹奏楽団の生演奏での入場行進。凛々しい応援団服姿の女子生徒。聖火ランナーの登場に気分は開会式から高揚感でいっぱいになりました。

各競技ではさすが中学生と感じさせる迫力、躍動感。

リレーでは手に汗握る白熱した戦いに生徒も保護者も大声援を送り、応援に力が入りました。

応援合戦は趣向をこらしたマスコット、衣装、ダンス、どのチームも完成度が高くすばらしかったです。3年生をリーダーとするチーム全体の一生懸命さが伝わってきて見ているこちらも熱くなりました。

閉会式の成績発表で歓声あり、涙ありの姿は短い準備期間の中で本当にかんばって協力し団結してきた証なのだと思います。この経験はきつとこれからの成長に輝きを増すことでしょう。

そして、学校行事のたびに感じるのですが、学園生は皆、それぞれの係りの仕事をいつも気持ちよく爽やかに果たし、見ているこちらも清々しい気持ちになります。

これが学園生の伝統なのだと思われ、そして大変嬉しく思うとともに子供たちからパワーをもらった1日でした。

## 文化祭と体育会の思い

### 中3 保護者

文化祭での演劇、体育会での衣装作り。中学1年生からずっと憧れ、楽しみにしてきたので、そのことしか頭にない！そんな秋を過ごしたわが子でした。

演劇では、図書館で脚本を借りたり、勉強そっちのけで台詞の暗記に没頭したり、衣装選びに手こずったりと毎日バタバタでした。そして当日、舞台上で立派に役者をしている姿は、楽しそうで、キラキラと輝いていました。

## 11月26日(木) やつなみ保護者会 研修旅行

教養部  
永田 利子

11月26日にやつなみ保護者会役員と友愛セール・模擬店にご協力いただいた保護者の方々とで研修旅行に行つて参りました。バスの定員いっぱい45名の参加です。

まず、今年修理が終わった姫路城へ。真白い大天守がとても美しかったです。続いて、神戸メリケンパークオリエンタルホテルの中華料理オーダーバイキングへ。座ったままメニューから好きなものを好きなだけ注文できるため、丸テーブル

ルごとに落ち着いておいしいお食事を楽しむことができました。

その後、元町を自由散策。帰ってくるバスは荷台はおみやげでいっぱい！

ガイドの佐藤さんの楽しい(ホラ?)話もあり、バスの中は終始笑いとおしゃべりで楽しく過ごすことができました。

途中参加の会長さんは楽しみにしていたお城見学ができなかったというハプニングもありましたが、全体としては皆様のご協力により予定通りに無事研修を終えたことを感謝いたします。

来年も是非多数のご参加をお待ちしております。



どの行事、どの活動でも、子どもたちが主体となって取り組めるよう支援してくださり、成長させてくださった先生方に感謝します。そして子どもたちもこれからも楽しく実りある学園生活を送れるよう願います。

# 会報

**地区会** 7月を中心に26の全ての地区で地区会が開催された。平均出席率は49パーセントであった。(昨年50.4パーセント) また、止宿の保護者の方にはアンケートでご意見をいただいた。地区会でのいただいたご意見は、冊子にまとめて、今後の指導に活かされる。

**オープンスクール手伝い** 7月26日のオープンスクールでは、三役と各部長他、13名の役員がお手伝いをし、参加した1400名を超える小学生・中学生・保護者に冷たいお茶やミネラルウォーターを配布し、喜ばれた。

**第3回評議員会** 9月2日開催 会長挨拶の後、各別協議と各部より報告・研修・出張の報告等がされた。

**第2回全役員会** 9月2日評議員会の後引き続き開催された。会長・校長の挨拶、学校近況報告の後、協議報告事項に移った。指導部からは、地区会の報告、街頭・列車補導について、庶務部からは、

友愛セール、大祭湯茶接待について、教養部からは、研修旅行と教養シリーズ発行について、それぞれ報告と協議がなされた。また、友愛セールについての打ち合わせを行った。

**友愛セール** 9月12日には準備、13日にはほつま祭での友愛セールを、全役員が一丸となって取り組んだ。1学期から夏休みをにかけて、手作り会を開催し、手作り作品を多く販売した。また、高3保護者有志による模擬店も好評であった。

**金光教大祭湯茶接待** 10月4・7・10日の3日間、生神金光大神大祭に延べ30名の役員が奉仕した。また、12月13日、布教功労者報徳祭に9名の役員が奉仕した。いずれも全国の参拝者の方々に湯茶の接待をして大変感謝された。

**やつなみ保護者会研修旅行** (やつなみ保護者会のページ参照)

**第4回評議員会** 12月3日 2学期の行事(友愛セール・大祭湯茶接待・研修旅行・研修会・補導活動等)の報告及び反省が行われた。

## 諸会合

- 8月20・21日 全国高P連岩手大会 小川会長他三役4名参加
- 9月17日 浅口里庄P連母親委員会研修会 安原副会長・大本監事出席
- 11月9日 県私学協会秋季第2回研修会 松本・安原副会長他庶務部員4名・教員4名出席
- 11月17日 県高P連指導者研修会 大本・加賀監事出席
- 11月20日 備西地区高P連秋季総会 平松副会長・金光校長出席

## 【H27年度友愛セール決算報告】

収 入	友愛セール売上	2,384,029
	模擬店売上	444,748
	醬油等売上	635,892
	友愛セール売上追加等(寄付含)	251,816
	合 計	3,716,485
支 出	手作り作品材料他諸経費	199,139
	友愛セール用物品購入費	19,251
	合 計	218,390
収支(収入-支出)		3,498,095
使 途 ※	赤十字事業資金へ	20,000
	社会福祉協議会(歳末助け合い)	50,000
	合 計	70,000
残 高		3,428,095

※印 例年寄付をさせていただいている団体

さる9月12日、13日の2日間、本年度のほつま祭が大に開催されました。絶好の天候にも恵まれ、私も三役としてお手伝いをさせていただくようになりました。3回目のほつま祭でしたが、これまで以上に盛況だったのではないかと思います。

保護者の皆様方のご尽力に改めて、心から感謝申し上げます。

保護者の皆様方には、ほつま祭当日だけではなく、役員をお受けいただいた方々を中心に本当に多くの方々に半年以上も前から、何度も学園に足を運んでいただき、献身的にご準備を重ねていただきました。特に手作り作品については、本当に皆様方、熱心に取り組んでいただき、毎年レベルアップをされ、いまやプロの域に達しているのではと、感心をさせられております。噂では他校の学園祭でコピー品のようなものが出回っているとか。

それぞれの皆様方が、受験生をお持ちであったり、いろいろな事情がおありになる中、本当にありがとうございます。ご協力にも改めて感謝申し上げます。

ほつま祭は、毎年、様々な伝統を引き継ぎながら行われておりますが、決して毎年前年同様に行われているわけでは無く、反省点や改善点を取り入れながら、年々進化しております。そのため、逆に保護者の皆様には、ご不満な点や、戸惑いを感じられる方もおられたと思いますが、ご理解いただき、最終的には大成

## 「2015年友愛セール」ご協力の御礼

功の裡に、そして楽しく終えることができました。今後ともお気づきの点や、改善点をどしどしお寄せいただき、来年はさらに進化したほつま祭にできればと思います。よろしくお願いします。

おかげさまで今年も大変多くの売り上げをあげることができ、収益金も残すことができました。このお金は学園としっかりと協議をしながら、子供たちの未来のために大切に使用させていただきたいと思っております。

保護者、生徒、学園が一体となって、このように大規模なバザーを実施している例はなかなかありません。今後もしつかりとこの伝統を大切にしていきたいと思っております。あらためて、このほつま祭をそしてバザーを可能にしているのは、保護者の皆様の、子供たちのために、学園のためという熱い思いに他ならないと思っております。

収益金を上げて、子供たちの役に立てるといふことももちろんですが、準備の過程からはじまり、当日のお手伝いまで、保護者の皆様方、すべては子供たちのためという熱い思いで、いろいろなことを犠牲にして時間をつくり、汗を流す。その姿を見せるということが子供たちにとっての最大の教育にもなっているのではないかと思います。

本年も本当にありがとうございます。

金光学園やつなみ保護者会

会長 小川 恭史



# 探究

# 授業報告



## 探究(中3)

### ○原子力発電プレゼンテーション

2学期の「原子力発電プレゼンテーション」へ向けて、夏休みの課題ではメモリーツリーで原子力発電の今後についての大きな流れをつかみ、準備を進めてきました。10月14日にはプレゼンの効果的な方法を川崎医療福祉大学の荒谷眞由美先生より学び、自分たちの発表の糧としました。11月よりクラスで2グループに分かれて、パワーポイントで作成したスライドと、さらに要約を英語でプレゼンテーションし、お互いを評価し合い、クラスの代表を選出しました。12月22日には中3探究全体発表会を実施する予定です。

## 探究Ⅰ(高一)

### ○ゼミ活動

9月から所属するゼミが決まり、今後

明付きのファッションショーを鑑賞しました。その後、グループ毎に分かれて、英語で自分たちが進めてきた研究を発表し、質疑応答を行いました。質問が十分に聞き取れなかったこともありましたが、大変貴重な経験ができました。

### ○校外の発表会に参加

7月20日に大阪教育大学で開催された高校生天文活動発表会 天文高校生集まれ!に天文ゼミの2グループが参加し、ポスター発表を行いました。

7月31日に岡山大学で開催された高校生・大学院生による研究紹介と交流の会に理系ゼミの各代表と電気科学部が参加し、ポスター発表を行いました。他校の生徒や大学院生による発表を聞き、刺激を受けました。

8月1日に行われた京都大学EFORUM 課題研究発表会に数学ゼミ1グループと化学ゼミ1グループが参加し、ポスター発表を行いました。多くの先生方に見て頂き、質問を受けたことでより一層やる気が湧いたようです。

8月22日にエル・おおさかで行われた全国数学生徒研究発表会(マス・フェスタ)に数学ゼミ1グループが参加し、ポ

自分達が行う研究テーマを探しました。11月からは、本格的にゼミ活動がスタートし、研究が開始されました。11月30日には4限〜7限までの4コマを活用して取組みが行われ、ゼミによっては校外で研修を行いました。まずは2月の探究Ⅰ中間発表会に向けて研究を進めていきます。どのような研究になるか楽しみです。

## 探究Ⅱ(高二)

文系は5ゼミ(水問題・教育制度・果樹栽培・ジーンズ・No.1岡山)、理系は8ゼミ(数学、情報、天文、物理、化学、川生物、スポーツ科学)に分かれて、個人またはグループで研究を進めました。さらに、多くの発表会を通して、コミュニケーション能力を養うことができました。

### ○校内課題研究合同発表会

11月19日、文系・理系ゼミ合同で日本語ポスターでの発表会を行いました。文

スター発表を行いました。

## 受賞等

☆天文ゼミ(高2藤原南)は「流星と火球の研究」その起源を探る試み」でSSH生徒研究発表会において、学校代表として全国のSSH校が集まる中で堂々と発表できました。

☆第59回日本学生科学賞岡山県審査「優秀賞」(川ゼミ:全員高2岡田拓也、岡野敢太、川本大貴、五島佑太、千神泰成)

☆日本薬学会中国四国支部学術大会 高校生オープン学会「奨励賞」受賞(スポーツ科学ゼミ、生物ゼミ)

☆第2回高校生による歴史・文化研究フォーラム「優秀賞」受賞(ジーンズゼミ・No.1岡山ゼミ)

☆第12回高校化学グランプリコンテスト2015↓1次審査通過↓発表(化学ゼミ)



系ゼミ生徒にとつては最後の発表会となり、「言葉だけでなく、ジェスチャーを用いて自分が持つ知識を伝えることができた」、「今後もこの経験を活かしていきたい」という感想がありました。理系ゼミ生徒は今後、2月11日の国際化発表会に向けて英語での発表練習を頑張っています。

### ○探究Ⅱ文系ゼミ国際化中間発表会

10月2日、文系ゼミは留学生をお招きして、留学生による流暢な日本語での説



メタセコイヤ

川ゼミ(高2 岡田拓也君 岡野敢太君  
川本大貴君 五島佑太君 千神泰成君)  
日本学生科学賞岡山県審査優秀賞  
を受賞

今年度の川ゼミの研究「水環境保全のためのアプローチ」が、里見川の環境を4つの分野に分けて解析している点や、調査結果を地域に還元しようとしている点などを評価され、日本学生科学賞岡山県審査で優秀賞を受



賞しました。10月24日に、国際交流センターで表彰式が行われ、研究メンバーと指導にあたった中原清江先生が出席しました。以下、ゼミ長の岡野敢太君のコメントです。「多くの素晴らしい研究がある中で、このような賞をいただけたことは本当にうれしいです。探究活動をしてきてよかったです。」今後も探究活動での経験を活かして活躍されることを期待しています。

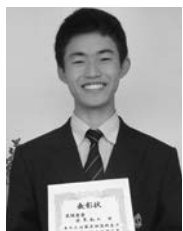
### 第2回高校生プレゼンテーション コンテスト 最優秀賞を受賞

高2 目黒 達之

私は10月24日に中国学園で開催された第2回高校生プレゼンテーションコンテストに参加しました。パキスタンの教育問題についてのプレゼンテーションを英語で行い、最優秀賞をいただくことができました。日頃探究授業で調べてきたことを校外で発表し評価してもらい、多くの人に自分の伝えたいことを伝えること

ができ嬉しく思います。

マララさんの国連でのスピーチを聞き、彼女の子教育の大切さを訴える真剣な姿勢に感銘を受けたと同時に世界の教育の現実を知り、興味を持ち教育問題ゼミに入りました。そこではパキスタンの女子教育にフォーカスをあてて調査を進め、少しでも多くの生徒が学校に通えるようにするには何が必要なのかを考えてきました。教育問題は色々なことが複雑に絡まり合っており調査に行き詰り大変なことも多々ありました。しかし、文献などを読み進める中で少しずつ前に進むことができ、考え方の幅が以前と比べて大きく広がり、多角的に物事を見つめる力がついたように感じます。また校内でも自分が調べてきたことを発表する機会が多く、指摘を受けたり返しました。このような積み重ねで自信もつきその先への良いモチベーションにもなりました。その集大成として今回の大会に参加でき本当に良かったです。



また今後も色々なことに目を向けどんどん視野を広げていきたいと思えます。

### 第40回岡山県中学校弁論大会 『努力賞』受賞

11月16日(月)に山陽新聞本社で行われた右記の大会に、中学3年3組の岡本圭織さんが浅口市代表として『私の友達』という論題で出場し、『努力賞』を受賞しました。おめでとうございます。ありがとうございます。



### 『第8回浅口市長杯中学生英語スピーチコンテスト』 優秀・準優勝受賞

11月10日(火)、浅口市公民館を会場に『第8回浅口市長杯中学生英語スピーチコンテスト』が行われ、中3生徒が暗唱部門で優勝と準優勝をいただきました。練習期間が短い中、毎日早朝や昼休みや放課後の時間を使って毎日一生懸命練

習に励みました。暗唱の部では教科書の本文から自分の読みたい題材を選び、創作の部では身近な体験を通して『平和と幸せ』、『地球温暖化』などをテーマにスピーチを作成しました。どちらの部門も英語らしい発音やイントネーション、表情やアイコンタクトなどスピーチに大切なことを意識し、練習を重ねました。お互いのスピーチを聞きながらアドバイスし合ったり、良い点や改善点を共有したりしてスピーチの質を高めました。ただ単に英文を覚えて読み上げるのではなく、自分の言葉として気持ちを込めて語ることを目指しました。その結果、本番ではどの生徒も堂々と練習の成果を発揮し、立派なスピーチを行うことができました。参加生徒は緊張感の中、達成感を味わい、とても良い経験になったと思います。生徒のチャレンジ精神と努力とその成果に感銘を受け、誇りに思っています。



今後多く多くの生徒がこのような機会に挑戦し、成長してくれることを楽しみにしています。

暗唱の部

優 勝：岡本 圭織

『A Mother's Lullaby』

準優勝：藤井 大地

『Human Rights for All』

### 浅口支部児童生徒科学研究 コンクール最優秀賞受賞

中学3年  
2組の日名  
啓介君が、  
夏休みの自由研究「食品のニオイでカビを防ぐ」を浅口支部児童生徒科学研究コンクールに出品し最優秀賞を受賞しました。おめでとうございます。



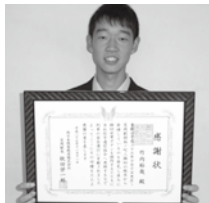
### JR笠岡駅長より感謝状

11月11日(水) 校長室においてJR笠

岡駅長さんより高2竹内裕哉くんに感謝状の授与が行われました。

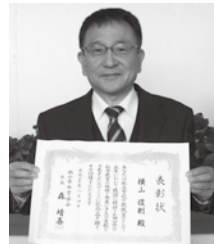
竹内くんは里庄から笠岡駅間の踏切の枕木より発煙

しているのを発見し、速やかにJR通信指令室へ連絡しました。列車の安全運行に貢献した行動が評価されました。「思ってもみない表彰を受けてうれしい。学園生としてもっと地域に貢献したい」と語る竹内くん。今後もあらゆる方面での活躍を期待しています。



### 横山俊則先生 私学協会功労者表彰を受ける！

横山俊則先生が8月4日(火)にアイビススクエアで行われた「岡山県私学協会研修会」で、私学協会功労者として表彰されました。横山



先生は、県下の私立学校の教職員として永年に渡り職務に精励されたことがたたえられて今回の表彰となりました。

以下、横山先生のコメントです。「今回の受賞を心から感謝し、これを励みに一層金光学園教育に力を尽くしていきたいと思えます」。

今後のますますのご活躍をお祈りしています。本当におめでとうございます。

### 山口紗生先生 全日本社会人卓球 選手権大会出場 大健闘

山口 紗生

この度、私は10月10日から2日間、石川県で行われた第49回全日本社会人卓球選手権大会に出場いたしました。2回戦敗退という結果でありましたが、自身としては満足の結果だと考えています。女子卓球部の指導をしていく中、部員たちにより具体的なアドバイスや戦術が必要だと考えました。その時に、まずは私



が強い選手から刺激を受けようと思ったことが、この試合に出るきっかけでした。今後も卓球部の部員たちとともに切磋琢磨して、金光学園卓球部の繁栄に尽力したいと思えますので、応援よろしくお願致します。

### 瀬戸内倉敷ツーデーマーチ フォトコンテスト「特選」

(倉敷市、朝日新聞社、瀬戸内海放送、全日本写真連盟関西本部主催)

森谷 光子

3月14日、15日に開かれた第28回瀬戸内倉敷ツーデーマーチのフォトコンテストで「特選」をいただきました。昨年からはじめて20kmコースを2日間歩いて撮った写真で、昨年は「参加者特別賞」今年「特選」でした。

来年は40kmコースに挑戦したいと思っています。毎日歩いています。



## ある日のホームルーム 中学3年2組

人権教育のHR、前回のHRでは学年で「どんぐりの家」のDVDを見て、感想文を書き、その感想文や資料を基に話をした。

担任から、DVDの感想文のはいった学年通信を配った。DVD鑑賞のあとの感想文を書くときも、DVDの中身についてしっかり考え、しっかりとした感想をみんな書いていたので、ほかの人がどのようなことを書いているのかを真剣に読んでいる生徒が多かった。

資料を参考に、担任が障害について話をしていた。生まれながらに障害がある場合もあるが、普通に生活していく中で、けがや事故でも起き得ることを話をした。部活動でもあり得る話をすると、運動部の生徒は、大きな反応はなかったものの、気にした様子で耳を傾けていた。自分の生活している空間を考えさせ、

もしけがをして、松葉杖を使って生活することになったとき、使い勝手はどうだろうということを考えさせ、担任がけがをして松葉杖生活をしている時、松葉杖を使って学校で授業した苦労話などをすると、「なんしょーたん?」「えー」とかなんとも言えない反応ではあったが、今の学校や家などがどれだけ使いにくいのか、の一端がわかってくれたのではないかと思った。

また、大丈夫ですかといった感じで手を貸してくれるのもうれしかったが、何気なくサポートしてくれるのもうれしかったことを話をし、みんなもそんな風になってほしいと言くと、「ウンウン」という感じで反応してくれていた。

気持ちではわかっていて手助けをしているといけないう感覚はもっているが、それを出せるところまでの勇気があ

だまだだなあという印象をもった。そのあと時間があつたので、提出物のできていないものがあればやりなさいと言くと、「どこまでやればよかったかな」とか「何がでてないだろう」とか言いながら、みんな机に向かって、プリントやノートに向かっていた。

HRやGTで、行事や学年の取り組み、提出物の対応などで、なかなかクラス独自の取り組みができていないのが事実。クラスの委員などを使って、一度クラス行事をやってみてもいいかなと思つている時期かな。またクラスの違った面が見えるのも楽しみにしているところだ。



# 活躍おめでとう

## 《中学陸上部》

第49回中国中学校陸上競技選手権大会に出場して

高3 眞田 明日香

私は8月7日から8日に鳥取県鳥取市で開催された「中国中学校陸上競技選手権大会」に女子砲丸投げの岡山県代表選手として出場しました。県外のグラウンドで開催される大会に出場するのは初めてで、緊張しました。

試合当日、投てき練習の終了を意味する旗が出て、いよいよ競技開始です。15人の選手がそれぞれ3回投げ、決勝へ進む8人が選ばれます。私は8人の中に入ること意識し過ぎて力が入り、最初は思い通りの投げ方ができませんでした。しかし、岡山県代表の他の選手が好記録を出すのを見て、私も続かねばならないと思いました。

結果は2位で、自己ベストの記録を出



すことができました。一方で、直すべきところや私に欠けているところも見えました。力を入れ過ぎずにスムーズで美しい投げ方ができるよう、質の良い筋肉を増やすことや、指導してくださる先生や先輩方のアドバイスを一つ一つ大事にし、それらをすぐに実行することが大切だと思いました。

高校生になると、砲丸の重さが272kgから4kgになります。たくさん筋肉をつけて、フォームの改善をしなければなりません。来年のインターハイは岡山県で開

## 《高校少林寺拳法部》

インターハイに出場して

顧問 安田 智幸

7月31日～8月2日にかけて兵庫県姫路市で開催されたインターハイに、本校から高3の中野真聡と同じく高3の有田胡桃が出場した。2人は、県総体において、男子単独演武の部で優勝、女子単独演武の部で2位となり、出場権を得た。

男子単独演武の中野は予選を突破し準決勝に進出。惜しくも同点で決勝には進出できなかったが、ベスト32となった。女子単独演武の有田は準決勝、決勝に進出し、第16位となった。

高3 中野 真聡

僕は7月31日から姫路で行われた全国高等学校総合体育大会に出場しました。初めてのインターハイだったのでとても緊張したけど、自分の力を試す場でもあったので楽しみだという気持ちの方が強かったです。大会前日に会場で練習をした時、まわりの人達が全員自分より上手い気がして、とても不安でした。でも、高校最後の大会なので、絶対に後悔はしたくないと思いました。

予選では、自分が今まで演武をした中



で一番良い演武ができたと思います。結果としては、準決勝までしか行けなかったけど、6年間少林寺拳法を続けてきて、最後に最高の演武ができたので後悔はしていません。

今まで指導して下さった先生方、いつも応援してくれた家族、そして今まで一緒に頑張ってきた仲間、全ての人に感謝し、これからも少林寺拳法を通して学んだ多くのことを忘れずにいろいろなことに挑戦し、頑張りたいと思います。

高3 有田 胡桃

私はインターハイに出場したことで、多くのものを得ることができました。基礎練習の大切さや、多くの人に支えられることなどです。中でも、仲間の存在は私にとってとても大きな支えでした。高校女子部員が私一人で、不安も多かったけど、いつも一緒に練習してくれたし、多くの相談にも乗ってもらいました。県大会では、本番ギリギリまで元気づけてくれ、部員みんなが「頑張れ」と言ってくれました。そのおかげで県大会で2位になり、インターハイ出場が決まりました。

私にとってインターハイは、初めての場であり、高校生活最後の大会でした。悔いの残らないように、自分の今までやってきたことを全て出しきろうと、予選、準決勝に挑みました。緊張はあまりすることなく演武ができました。そして目標にしていた、決勝戦に進出することができました。決勝戦では、今までにないくらい緊張していました。演武を始めると最初の気合を出した時、緊張が溶け、普段通り演武をすることができました。結果は16位でした。予選、準決勝の時より点数が下がってしまったけど、自分の出せる力は出し切ったので後悔はしていません。でも、16位という結果は、自分の中で満足の行く結果ではないので、大学でも少林寺拳法を続け、全国大会入賞を目指したいと思います。

高校3年間の部活動を通して学んだことを、次は先輩たちに伝えていきたいと思っています。

中国大会に出場して

顧問 安田 智幸

6月20日・21日、金光学園ほつま体育館において、第25回中国高等学校少林寺



拳法選手権大会が開催された。本校からは、男子単独演武の部に高3の中野真聡、山中勘輔、高1の友田直陽が、女子単独演武の部に高3の有田胡桃が出場した。大会の開会式において山中・有田の2人が元氣よく選手宣誓を行った。その後、予選・決勝が行われ、男子単独演武の部で中野が優勝、女子単独演武の部では有田が第3位となった。

### 中国大会に出場して

高3 山中 勘輔

僕は6月21日に金光学園で行なわれた中国大会に出場しました。この大会は僕にとって初めての中国大会であり、6年間がんばってきた部活の引退試合でした。中国大会は自分が目標としていた大会の一つであり、短い期間の間に一生懸命がんばって練習をしました。

そして大会当日、今までと違った緊張感で大会に挑みました。予選では今までがんばってきた力を充分に発揮して演武をしました。結果はギリギリで決勝には行けませんでした。とても悔しかったですが、ここまでがんばってきたという達成感が自分の中にはありました。そして

この達成感を忘れずこれからもがんばっていきたいと思います。最後になりましたがここまでご指導してくださった先生方、応援してくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

### 《高校野球部》

主将 岩崎 真矢

高校野球部は10月23日より島根県で行われた秋季中国地区高等学校野球大会に出場しました。この大会は来春の選抜大



会にも繋がる大会であり、甲子園出場がかかっていました。今季で勇退を決められていた小林監督と甲子園に行くという強い思いを持って臨みました。結果は中国大会ベスト8で敗れました。小林監督との甲子園への挑戦は終わりました。今でもあの時こうしていればと思うことはあります。しかし、僕はまだ来年の夏の甲子園が残っています。中国大会では、島根で行われたとは思えない程たくさんの人が応援に駆けつけてくださいました。予選から中国大会まで本当にたくさんの応援ありがとうございました。野球が出来る環境に日々感謝し、甲子園で日本一を目標に練習に励

んでいきたいと思っています。これからもどうかよろしくお願いします。

### 《高校卓球部》

#### 第62回中国高等学校卓球選手権大会

(男子団体・男子ダブルス出場)

#### 部活動を終えて感じたもの

高3 掛谷 崇将

私達は6月19日から3日間、岡山県総合グラウンド体育館で開催された中国高等学校卓球選手権大会に出場しました。結果は団体戦が1回戦敗退、ダブルスが2回戦敗退とあまり良い成績とは言えませんが、高校生活において最後の、また中学から続けた6年間の最後の大会ということで、改めて感じたことが多々ありました。その中で私が一番良かったと思うのは今まで関わってきたチームメイト、先生方、保護者の方々への感謝の気持ちをもってたことです。練習をするにも、試合をするにも、道具を揃えるにも必ず誰かに支えてもらっていることを感じ、最後の試合ではお世話になった全ての方々に、感謝の気持ちをもってプレーすることができました。私は自分なりに部活動をする上で大切なことを学べたと感

じ、嬉しく思います。

#### 第62回中国高等学校卓球選手権大会

(女子団体出場)

#### 6年間の部活動を終えて

高3 小見山 知遥

私達は6月19日から3日間、桃太郎アリーナで開催された第62回中国高等学校卓球選手権大会に出場しました。高校生活最後の試合を中国大会で締めることができ、指導して下さった顧問の先生方や共に頑張ってきたチームメイト、いつも温かく見守り、応援して下さいました保護者の方々への感謝の気持ちでいっぱいです。1回戦敗退という結果に終わりましたが、やり切ったという充実感を得ることができ



### 《文芸部》

岡山県高等学校芸術文化連盟文芸部会の主催する「高校生文芸道場おかやま2015」散文部門(7月1日～31日)において、高校2年7組山口璃菜が「海を染める」という作品で優秀賞を受賞しました。その結果を受けて出品した「第17回高校生文芸道場中国ブロック大会(島根大会)小説部門(作品応募期間8月1日～9月8日)」においても、同作品が佳作に選ばれました。

高2 山口 璃菜

「文芸部って何をしているの?」

友人から、よくこんなことを聞かれます。確かに文芸部は試合に出場することも、コンサートを開催することもありません。毎月小説を書いて薄暗い部屋で批

評会を行う。自分たちでは熱心に活動しているつもりでも、心のどこかで他の部を羨ましく思っていました。私もほつま体育館のステージで表彰されてみたい。文芸部の存在をもっと多くの人に知ってもらいたい。それが「高校生文芸道場おかやま」に応募しようと思ったきっかけでした。

「海を染める」には、今の私の等身大の想いを込めました。将来への不安や様々な葛藤を抱えながらも前へ進もうとする2人の少女は、私にとって憧れであり希望でもあります。部員たちと一緒に執筆活動に励み、互いに高め合う中で生まれた作品が、このような素晴らしい賞をいただいたことを、とても嬉しく、誇らしく思います。



### 《中学バレー部》 全国大会を終えて

中3 石本 皓南

僕たち金光学園中学校男子バレーボール部は北海道の旭川市で行われた全日本中学校バレーボール選手権大会に15年ぶりに出場しました。先ず、開会式に驚きました。県大会やブロック大会とは比べものにならない盛大で大きな式でした。とても気持ちが高揚しました。その高揚した気持ちを抑えながら、予選突破のためのミーティングを重ね、意志疎通を図りました。予選の初戦は関東ブロック2位の埼玉県代表の富士見市立東中学校です。Vリーガーを輩出するような伝統ある学校ですが、気持ちでは負けなように頑張りました。緊張のあまり、自分たちの力を十分には発揮することが出来ずに敗れてしまいました。続く2戦目は、地元北海道第1代表の岩見沢市立清園・豊中学校です。全日本中学選抜にも選出されている選手がいましたが、全員力を結集して苦しみながらもフルセットで勝ちました。翌日の決勝トーナメント1回戦は関東ブロック3位の東京都代表の



安田学園中学校と対戦しました。1セット目を取りましたが、続く2・3セットを落とす、フルセットの末敗れてしまいました。全員涙を流しましたが、その涙は悔しさと全員でここまで来れた嬉し涙だと思えます。このような経験をさせてもらったのも多くの方々に支援していただいたからだと思います。そのおかげを忘

れることなく、これからも日々精進していきたいと思えます。本当にありがとうございました。

### 中国大会を終えて

中3 中原 悠真

僕たちは8月5日から7日まで、鳥取県で開催された第49回中国中学校バレーボール選手権大会に岡山県代表として出場しました。予選グループ戦は無事に1位で通過することが出来ました。先輩達が4年間、勝てなかった準々決勝を前に全員でミーティングしました。今までやってきたことをやるだけ。全員でやろう。

チーム一丸となり勝利する事が出来、先輩達を超えることが出来ました。後は、全国大会の切符を得るだけです。準決勝は宿敵山口県



代表の高川学園中学校ですが、惨敗してしまい3位決定戦に夢を繋げました。3位決定戦は同じ岡山県代表の津山市立東中学校です。ここでもチーム一丸となりボールを繋ぎ、勝利する事が出来ました。その瞬間、涙が止まりませんでした。全国大会出場の実現させてもらえらるのも熱心に指導して下さいました先生や先輩方、遠方にも関わらず応援に来て下さった保護者の方々や先生のおかげだと思います。本当に感謝してこの気持ちを忘れず、日々努力していきたいと思えます。本当にありがとうございました。

### 《中学放送部》

6月13日(土)、岡山市立中央公民館において第32回NHK杯全国中学校放送コンテスト岡山県予選が行われ、中学2年の山本幸歩がアナウンス部門で優秀賞を、テレビ番組部門で同じく優秀賞を受賞し、全国大会への出場を果たした。

中2 山本 幸歩

何ヶ月も前からアナウンスを毎日一生懸命練習しました。自分の思っているような読みができなくて苦労しましたが、

その時の努力が結果につながりとても嬉しかったです。私はこの大会であきらめないことの大切さを学びました。放送以外でも学んだことをいかして頑張っていきます。応援してくださいました。



中3 岡本 圭織

番組『中学生、スマホと向き合う』のテーマはスマートフォンです。私達は今回の番組製作を通して、今後どのようにスマートフォンと向き合えばいいのかを考えました。番組製作はなかなか進まず、不安になることもありましたが、番組が完成した時の嬉しさと達成感忘れられないものでした。今後もより良い番組製作を行っていききたいです。

# 東京研修旅行



7月30日から8月2日までの3日間の日程で、東京研修が行われた。今年度は、「日本・そして世界で活躍する人材へ」というコンセプトのもと、海外でも活躍する企業や、日本と世界を繋ぎ、「日本の世界の」ともいえる大使館への見学等を行った。

初日はまず、本校卒業生の戸田信之氏（高24回）が社長を務める、月島食品工業株式会社の見学に向かった。今回の私たちのコンセプトに賛同してくださり、「是非我が社へ」というご厚意で実現したものである。

月島食品工業株式会社は、業務用中心の食品加工油脂のメーカーで、現在国内シェアは業界第4位である。海外展開もしており、インドネシアでは工場を建設中である。

工場到着後、早速工場の製造ラインを

見学させていただいた。防護服に着替えたのだが、生徒のほとんどが初体験のようで、すでに楽しそうであった。4グループそれぞれに従業員の方がついて下さり、工場内のポイントごと丁寧な説明をしていただいた。製造ラインの内部にまで入れたことで、生徒達は見る物すべてに目が釘付けであった。

その後会社説明会があり、インドネシアの現地で働いていらっしゃる海外事業部長の仁科玄一郎氏（高24回）からのビデオレターが上映された。先輩が実際に海外で活躍されている姿を見て、「世界で働く」ということを身近に感じることができた。

2日目は、午前中に東京大学を見学した。本校卒業生の4年回生 山本大介くんの案内で、大学構内を見学した。安田講堂や赤門などを巡り、その後食堂で食



事をとり、つかの間の「東大生」気分を味わった。

午後からは「国会議事堂」「オーストラリア大使館」の二手に分かれて研修を行った。国会グループは衆議院議員の柚木道義氏（高43回）からお話を聞き、さらに、柚木氏が委員会で発言をする場面を傍聴することができた。まさに「日本の中心」が目の前で動いていることを実感でき、大変感動していた。本会議場も見学でき、テレビでしか見たことのない光景を目の当たりにし、興奮気味であった。

オーストラリア大使館では、まずは厳重なセキュリティチェックを受けた



後、大使館内に入り、スタッフの方からオーストラリアの説明をざっくりばらんに聞かせていただいた。今回の訪問を機に、オーストラリアに対する親近感を感じたようである。

最終日は、上野公園での自主研修であった。それぞれが事前に立てた計画に従って行動したのだが、その広大な敷地と資料の多さに「もっと時間をかけたかった」という声が多く聞かれた。

わずか3日間ではあるが、濃厚な3日間を過ごすことができ、どの生徒にとっても充実した時間を過ごすことができた。



# SSH宿泊研修記

【岡山大学医学部医学科研究室訪問】

日 程：7月28日（火）・29日（水）

参加人数：3名（中3 1名、高1 2名）

【内容】

7月28日（火）

午前 オリエンテーション

午後 シミュレーター体験、大学病院・

手術室、ヘリポート見学、実験

実習、交流会

7月29日（水）

午前 実験実習

午後 研究発表会

本研修は、香川県立観音寺第一高等学校の生徒と共同で実施した。28日のシミュレーター体験では注射と心肺蘇生法の実習を行った。腕の人体モデルは質感が非常にリアルで、動脈を探してうまく針を刺すことが難しかった。手術室の見学では生体腎移植やひびの手術の様子を見学した。一つの手術を複数の医師や看護



【SSH夏期宿泊研修】

日 程：8月4日（火）～6日（木）

参加人数：45名（中1 18名、中2 6名、中3 7名、高1 14名）

【内容】

8月4日（火）

午前 神戸市立須磨海浜水族園見学

午後 京都大学工学部 掛谷・白戸研究室訪問

8月5日（水）

SSH生徒研究発表会 ポスター発表見学

8月6日（木）

午前 大阪市立自然史博物館・長居植物園見学

午後 SSH生徒研究発表会 口頭発表見学

予定通り9：00から西嶋茂宏教授のあいさつをいただき、研修を開始。またほつま同窓会近畿支部からは大橋副支部長も来てくださり、生徒を激励するとともに差し入れをいただくなどあたたかいご支援をいただいで、初日の講義・実習に臨んだ。



4日には京都大学工学部 掛谷・白戸研究室を訪問した。掛谷研究室では、電気・磁石・超伝導に関する講義・実習を行い、白戸研究室ではソーラーチームニーや風力発電に関する講義を受け風力実験室を見学した。キャンパスの広さや実験施設の充実が驚き、自分も京都大学で学びたいと思った生徒も多数いた。また、留学生から英語で研究発表を聞き、内容は一部理解できても質問ができず、英語の必要性を痛感した。

5日のSSH生徒研究発表会では、それぞれに自分の興味がある分野のポスターを見て質問をした。6日の成績発表で自分がよいと思った研究が選ばれているか確認し、入賞した研究のどの部分が評価されたのか講評を聞いた。今後、自身が研究を行う際に注意・考慮した方がよい点を学ぶことが出来た。

【大阪大学宿泊研修報告】

10月24日（土）に開催される「サイエンスチャレンジ岡山2015」に学校の代表として出場する15人の選手の競技力強化のため、大阪大学での強化合宿を美

オーバーとなったが最後まで熱心に取り組んだ。

昼食をはさんで、午後は科学トライアスロンの実習。大学院生の司会のもと、高校生は3チームに分かれて実際に課題を制作した後、工夫した点などを各チームが発表した。ここでは大学生もチームを組んで参加し、高校生と競い合った。大学生チームの計算された制作や完成品などは多くの点でも参考になり、今後の強化の方向性も見えてきたように感じた。

休憩をはさんで17:00からは国際交流会。5人の留学生の方がそれぞれのグループでチェアマンをしてくださり、「将来の環境問題・エネルギー問題はどうか、それに対してどういう解決手法が考えられるか」というテーマでディスカッションをおこなった。約1時間のディスカッションの後は全員の前で英語でのプレゼンテーション。自分の意見をいかに伝えるかという部分が重視されており、うまく留学生がサポートしてくださり生徒も懸命に工夫してコミュニケーションをはかっていた。その後は会食しながら留学生と自由に英語で話すこ

とができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。

休日にもかかわらず西嶋研究室のみさなまがほほほほで金光学園のために準備をして動いてくださり、OB・OGの方のあたたかさに大きな感動を得た一日となった。

○10月4日(日)

8:15にホテルを出発し、予定よりも早く兵庫県立人と自然の博物館に到着。館内に入場して午前中は古谷先生による岩石の見分け方についての講義。事前に高梁川流域の石を送っており、この石も使いながらコツを教えていただいた。

昼食と館内見学の時間をとって13:00からは黒田先生による植物同定の講義。



実際に博物館の外でフィールドワークもおこない、目の前にあるさまざまな植物を題材にして多くのことを教えていただいた。

予定通り15:00に博物館を出発し、木SAで休憩をとり、17:30に学校へ到着した。

### 【大田記念病院】

11月2日に福山市にある大田記念病院で1日医療体験を実施した。この研修は、SSH事業として、平成25年度から、同病院の理事長で、高37回卒の大田泰正氏のご厚意で行わせていただいている。例年は、夏休みに行っていたが、今年度は、諸般の事情により、11月の実施となった。高校生は業者の模擬テスト実施日であったため、中学3年生のみを対象とした研修となった。23名の生徒が参加し、医師、看護師、薬剤師、技師、療法士、管理栄養士の6コースに分かれての実習も行われた。

冒頭、少子高齢化社会をテーマにした講演が行われた。その後、各分野から仕事内容、進路について、やりがい等々のプレゼンテーションが行われた。例えば、病院における管理栄養士の仕事としてイメージされるのは、「病院食を作る」程度ではないかと思われるが、実際には、患者それぞれの状態に応じてお米の固さを変えたり、調味料の量を調整したり、するばかりではなく、直接患者へのヒアリングや指導を行うなど、治療の一翼を担っている。それぞれの分野が想像して

いたよりもはるかに直接患者と触れ合い、活躍の場も広いことを学んだ。

心肺蘇生法の実習も行った。想像以上に力が必要で、特に女子は、最初はきちんとできなかった。ちよつとしたコツを教えていただき、30分ほどで、全員が蘇生法を身につけた。使う場は無い方がよいに越したことはないが、倒れた人が「呼吸をしてない」と思われたら、行えばよいとのこと。医療のプロでも、現場で手の感覚だけで、脈の有無を感じることは難しいのだとか。もし、心臓が動いていけば、蘇生法を行うと苦しくて何らかの反応があるので、やめればよい。分らないで蘇生法の開始が遅れることの方が、問題だとのこと、「なるほど」と思われた。

実習は、それぞれの分野に分かれ、病院内各所で見学や実習を行った。医師班は、人形を用いて、器官挿入の実習を行った。プロは簡単にささっと行っていたが、いざやってみると、意外と力が必要で、悪戦苦闘した。

驚きと発見の連続で、充実した時間となり、約6時間に及ぶ研修であったが、あつという間であった。



# 高2修学旅行 北海道コース

1日目

2組 坂居 知憲

梅雨の晴れ間に水田にたつぷりの水が張られ、夏の始まりを感じることでできる岡山県。そんな時分に北の大地、北海道へと我々は出発した。

北海道へはバスと飛行機を使って行った。そして気付けばすぐに北海道へ到着していた。空港から一步踏み出した。涼しい。皆から涼しさへの喜びの歓声が上がった。岡山の暑さとはまるで違いとても気持ちの良い気温だった。北の大地に来たことを早速実感した。

バスへ乗り、まずはホテルへ向かった。夕食が、初めて北海道で食べる食事となった。皆で北海道の味に感動した。私もいつもより食が進んだ。

その後、バスを使って函館山へ夜景見学に行った。函館の夜景は百万ドルの夜景とも言われていて、とても美しかった。皆もその景色を見ると「うわ〜」と感動の声がもれていた。初日にして北海道の

美しさと広さに感動させられた。

そしてバスでホテルへ帰り、入浴を済ませ、就寝の時間となった。初日は北の大地の大きさに感動したり、食に感動したりで刺激を受け疲れてしまったのか、皆はすぐに寝入っていた。初日は移動がほとんどだったが、函館の夜景を見ても充実した一日だった。また明日も北海道を満喫していきたい。

2日目

5組 渡辺 健斗

初めて北海道の朝を迎えた。晴れていて気温は少し高かった。

まずは函館自主研修をした。ほとんどの人が五稜郭公園の展望台に行き、上からの素晴らしい絶景を見た。昼ご飯はラッキービエロというハンバーガー屋へ行った。多くの有名人が行ったことのあるお店だった。人気ランキング1位のハンバーガーを食べた。とてもおいしかった。気温は高かったが、風が吹くと涼し

3日目

7組 岸本 桃

北海道が寒いのは分かっていたが、朝は涼しいというより肌寒い感じがした。修学旅行3日目の朝は清々しく起きることができた。

午前中はそれぞれ色々な事を体験した。ラフティング、ロッククライミング、ダツキ。アウトドアが多かったが、私は友達と生キャラメル作りをした。どちらかというとキャラメル味のキャンデーになってしまったが、おいしかったから良かった。昼食は通常の2倍はあるハンバーガーを食べた。とてもおいしい。食べきってからカロリーを気にした自分が憎い。

午後は小樽で自由行動だった。小樽は海が近く、風は涼しくて潮のにおいがする。小樽と言って忘れてはいけないのが海鮮、オルゴール、そしてガラス細工だ。街道を歩けば海の街らしい、昔ながらの干物屋や寿司屋が立ち並ぶ。一方でこちらでは繊細なガラス細工が初夏の光を受けて輝いている。古い倉庫のお店にはかわいらしい装飾と美しい音色を奏でるオルゴールが並んでいる。ジャンルが全



くとても気持ちがいい天気だった。午後からはバスでニセコのペンションへ移動した。ペンションに着くと、とても優しいオーナーさんが迎えてくれた。ペンションの食事はとてもおいしく、最高だった。夜は自分達で自由に使って良い部屋があったので、そこにみんなが集まって楽しく遊んだ。

北海道の素晴らしい自然を見て感動したり、ペンションで楽しく過ごしたりとても良い一日になった。

く違うお店が違和感なく立ち並ぶ。美しく不思議な町だと思った。そんな素敵な町で過ごす時間はあつという間に過ぎていた。友達と財布を見れば皆寂しい様子だったのを覚えている。

小樽から電車で50分。札幌は北海道らしい自然が少なく、都会らしいビルが騒然と立ち並ぶ。田舎者の私は少し驚いた。宿泊するホテルはそんな都会に似合うホテルだ。友達と話して、はしゃいで、夜が更けた。

4日目

7組 山口 璃菜

修学旅行4日目は旭山動物園に行く班と札幌一日自主研修をする班に分かれて行動した。

「暑い〜」ここが北海道であるということ忘れてしまうような日差しの強さだ。さっそく園内に入ると、生い茂る緑に目を奪われた。

この旭山動物園は、「行動展示」という独特な展示方法で有名だ。動物たちが、檻やケージの中ではなく、より自然に近い状態で飼育されている。360度、様々な角度から動物たちの姿を間近に観察する



ことができるのだ。

私達の一番のお目当ては、なんといてもホッキョクグマだ。大きくて真っ白な体。それとは対照的に小さな耳としゃぼん玉が愛くるしい。実際にホッキョクグマを見るのが初めてだった私は、その姿を目の前にして、思わず絶絶してしまっただけじゃれ合って遊んだり、日陰で昼寝をしたりするホッキョクグマたちを横目に、友達が「生まれ変わったらシロクマになる」と漏らしていた。

旭山動物園は、飼育員さん達の気配りや工夫が魅力なのではないかと感じた。園内には手作りの看板やプレートが置かれ、色鮮やかなイラストが描かれている。ワクワクするような雰囲気があった。

「また来よう」と思った。次来るときは、一日かけて、ゆっくりと回りたい。札幌へと帰っていくバスの中で、私はワクワクしながら眠りに落ちた。

### 5日目

4組 大本 彩加

天気はとても良く暖かく空気がおいしく感じられた。時がたつのが早く、気付けば最終日になっていて、疲れがあっ

たがまだ北海道にいたかった。

最終日、私たちは北海道開拓の村に行った。どんな所か全く想像がつかなかった。静かな所で、馬車が通ったり、ろう人形で昔の生活を再現してあったり、北海道の歴史が感じられる所だった。また竹馬や木のブランコもあってたくさん楽しむことができた。

バスで移動する時は、ほとんどの人が寝ていて、とても疲れている感じがあった。

新千歳空港ではお土産を買う時間がなくお昼ごはんも飛行機の中で食べた。飛行機の中では話をしたり、ごはんを食べたり、寝たりとそれぞれ過ごしていた。北海道を離れるのとてもさみしい。まだいたいという気持ちのまま北海道を旅立った。北海道のホテルの方やバスの運転手さん、ガイドさんなど本当にたくさんの人にお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいである。

この修学旅行に安全に楽しく行くことができてよかった。

## 高2修学旅行 オーストラリアコース

### 1日目

1組 藤 晃成

6月14日の朝、高校生活最大の行事である修学旅行が始まるうとしていた。当分感じることはない日本の朝とお別れをし、出発時間の12時30分が来るのをひたすら待っていた。その時がやってくる。一同はバスに乗り、関西国際空港を約4時間かけて目指した。空港に着くと、地方空港とは違い、ドバイ行きなどの大きな空港にしかとまらない航空会社がありと並んでおり、興奮がおさまらなかつた。そのような中、出国手続きなどの必要な手続きや荷物検査をすませた。保安検査場では、検査官の人が菌も見せずこちらをじろりと怖い目つきで見せてきた。恐怖を乗り越えようとよく搭乗できた。そして、生徒78名、教員4名は日本を発った。

2組 尾野有起良

はじめての機内食は美味しかった。そ

の後、オーストラリアまでの6時間半、睡眠をとった。睡眠から覚めるの先ほどまでの真つ暗な景色とは対照的な広大な地が窓越しに見えた。そのときの感動はけっして忘れないだろう。1時間の時差分、時計の針を進め、オーストラリアの地を踏んだ。

### 2日目

7組 堀 晃己

僕たちは着陸後、悪天候の中、バスで出発した。キュランダ村へ行くためにスカイレール乗り場へと移動した。辺り一面が熱帯雨林に囲まれる中で、高いところが怖いと感じていたが、恐怖を忘れるほどの絶景であった。村に到着してからアボリジニーのアクティビティ体験をした。見慣れない楽器やブーメランを使って生活しているアボリジニーの人々から強く文化の違いを感じた。ショーでは学園から2人参加してアボリジニーの人たちと一緒に踊っていた。



7組 上野由香子

昼食はバイキングで珍しいものがたくさんあった。カンガルーの肉は固くて美味しくないと感じていたが、柔らかく食べやすかった。パッションフルーツを初めて食べた。見た目は奇抜だが、甘酸っぱくて美味しかった。水陸両用車にも乗った。デイズニールランドの「ジャングルクルーズ」みたいだった。リアルなので危険な植物も間近に観ることが出来た。最後に動物園に行った。ワラビーが足元にたくさんいて可愛かった。



レインフォレスターションを去った後、アサートン高原でファームステイ先のファミリーと対面した。4歳の女の子と2歳の男の子のいる家だった。事前に教えられていた家と違っていて驚いたが、私は小さい子が大好きなのでとても嬉しかった。家に着くと早速裸足で庭に出て遊んだ。大きなトランポリンや子ども用の家があった。ステイ先の姉弟がお姉ちゃんの植木鉢をめぐってもめていた。これは大変なホストファミリーになりそうだと思う。

### 3日目

#### 1組 黒川 征之

ファームステイが始まった。迎えにはホストマザーのリングダが来てくれた。家までは1時間かかると言われ、その間どのような話しをすればよいかとまどった。その時、リングダの方からオーストラリアについて話しをしてくれた。車の中では「Don't sleep!」と言われた。オーストラリアの景色を楽しんで欲しかったようだ。とても僕たちのことを考えてくれているのだと思い嬉しくなった。家に着くと、ホストファミリーのジョンとたく

さんの犬が迎えてくれた。優しいホストファミリーだったのでこれからの生活が楽しみになった。

朝は雨が降っていた。しかし、雨粒はとても小さく濡れた気がしなかった。犬が外で走り回っていたので、自分たちも外に出て犬と遊んだ。

午後になって、ホストマザーがドライブに連れて行ってくれた。どこに行くかは教えてくれなかった。ワクワクしていると山奥で車が停まった。外に出てみると見渡す限り木ばかりでここを何をするのかと疑問に思った。リングダに連れられるままに歩くと、そこには大きな滝があった。あまりのすごさに声を失ってしまった。自然に包まれたとても落ち着く場所だった。

帰宅すると、門の所まで犬が迎えに来てくれた。とても賢くてかわいかった。リングダに呼ばれみんなで夕食を食べた。特大のウインナーとポテトサラダとかぼちゃだった。一品一品の量が多くて食べるのが大変だったが、とても美味しかった。食後のアイスを食べ「Good night!」と言って部屋に戻った。

### 7組 辻 怜菜

ずっと心待ちにしていたファームステイ。午前8時に子どもたちを起こされて、私はホストファミリーと初めての朝を迎えた。朝食は予想通り、トーストに目玉焼き、そしてウインナー。ザ・ブレックファストなメニューだ。その後、ホストマザーがチョココレートの店に連れて行ってくれた。ここでは、チョココレートが食べ物の域を越えてアートと化していた。白い靴やきれいなちょう、それらはすべてチョココレートで出来ているのだ。私たちはただただ感動し、デジカメにおさめた後、おやつ用に小さなチョココレートを買った。次は4歳の女の子の新体操教室に行った。元気いっぱいの子どもたちがトレーニングをしている。その様子を保護者に混ざって見ながら、先ほど買ったチョココレートを食べた。レッスンは終わると家に帰り、昼食を食べた。そして、元気があり余っている女の子に庭へと誘われて、トランポリンなどをして遊んだ。一面の広い芝生の上を、裸足で歩き回ったり、犬にボールを投げてやったりした。日本では敷地が狭く隣家や道路が近い。子どもをのびのびと育てられる環

境が整っていないなど強く感じた。また、馬やガチョウ、鶏などの生き物が周りにあふれ、庭の外では野生のカンガルーが跳ね回っているのも、オーストラリアならではの光景だなと思った。その後、2歳の男の子を幼稚園に迎えに行った帰りにフローレンスコーラを買ってもらった。新食感のコーラを楽しみながら、トレーニング遊具のある公園で子どもたちと遊んだ。帰宅して晩ご飯を食べ終わった後、真っ暗な夜空に目をやると無数の星が輝いていた。

### 4日目

#### 7組 工藤 智恵

ファームステイ3日目。澄んだ空の下で朝食を食べた。外では鮮やかな緑色の鳥、大きな白い鳥、小さな茶色い鳥が餌を食べていた。その後買い物に行つて、公園で昼食を食べた。それから色々な場所に連れて行ってもらった。一番目は自然豊かな場所。次は人が10人、両手を広げても届かないほど太く、空に向かって突き上がっている、とても大きく大きいイチジクの木がある公園に行った。ここ



アには本当に美しい自然があらゆる所に広がっているんだと感じた。巨大なイチジクの木は神秘的で、その木からこぼれ出た光と青空を見ていると、私は今オーストラリアにいるのだという実感が湧いてきた。最後に牛の農場に行った。ここでは牛に機械をつけて、牛乳を吸い取っていた。初めて見る光景が面白かった。

帰宅後、ファームステイ最後の夕食、バーベキューを楽しんだ。明日、別なければいけない寂しさをはねのけるようにみんなで盛り上がった。デザートのアイスとマンゴーを食べた後、ホストファミリーに頼まれて私たちは校歌や『三月九日』、『世界に一つだけの花』を歌った。ホストファミリーとは2日間しか過ごせなかつたけれど、「20歳になったら一緒にお酒を飲もうね」と言ってくれたので、もう一度オーストラリアに行きたいと



思った。

#### 4日目

##### 1組 神原 智之

ファームステイ3日目。一日中ホストファミリーと過ごす最後の日だ。朝は今までよりも明るい光で目が覚めて、外は驚くほどきれいに晴れていた。ファームステイ1日目、2日目とすっきりしない天候だったが、今日は違った。朝食を食べている間、年季の入ったラジオから音楽が流れていて、窓越しに見える青空と少ししっとりとした涼しい空気はとても新鮮だった。僕は朝起きるのがとても苦手だが、朝が好きになった。このような朝を迎えられるオーストラリアの人がうらやましくなってしまう。午前中に買いたい物に出かけ、知り合いだという農家の方の所へ行った。広大な農地が美しく、ずっと「すげえ」しか言っていなかった気がする。午後は別の知り合いの牧場へ行った。普段見る機会のない搾乳機を取り付ける所を見た。子牛も見せてくれた。牛糞の強烈なおおいに鼻をやられながら行くと、とてもかわいい子牛がいた。ホストマザーが僕の手を取って子牛の口の

前に持って行くと僕の手を吸い始めた。最初は驚いたけれど、時間が経つと自分の手を擦っている子牛が可愛く見えてきた。

家に帰り、夕食を食べた後、オーストラリアでは有名だというフットボールの試合を見た。迫力があってとても面白かった。試合が終わり、寝る前に外へ出てみると満点の星空がとてきれいだっ

#### 5日目

##### 7組 東 彩葉

ファームステイ最後の朝、私はホストマザーが入れてくれたホットチョコレートを飲みながら、涙を必死にこらえていた。4歳の女の子と2歳の男の子、それから犬と共に車に乗り、集合場所まで最後のドライブをした。会場写真撮って少し話してから司会の人話が始まり、バスに乗って別れた。バスの窓からファミリーとドライブした景色を見て一緒に過ごした日々を思い出した。港に着き、船に乗ると外のデッキにはすでにたくさんの方がいたので、船内に入った。中ではクッキーをもらって食べた。島

に着くとグラスボトムボートに乗った。ボートには他の国から来られた方たちも大勢乗っていて様々な言語が聞こえてきて、とても面白かった。しばらく乗っていると操縦士の方がカメや鳥、珍しい魚などがあることを知らせてくれた。そのたびに隣の中国人の女性が私の所に寄ってきた。

ランチはバイキングで日本の米との違いに驚き、日本の米の美味しさを実感した。ランチを終えるとビーチに行き、私は足だけ浸かった。冷たくて気持ちいい海水に浸りながら絶景の空と海を見た。太陽の光が海に反射して眩しいほどに輝いていた。帰

りの船ではクッキーはもらえなかった。自分たちのお菓子を食べた。船から降りてシティーブレイス周辺まで歩き、自主研修に入った。お



土産をたくさん買って、ぶらぶら歩いていると街頭に全身が金色でパフォーマンスをしている人がいたのでお金を払って見た。ずっと前から一度、見てみたかったものなのでとても嬉しかった。夕方過ぎにホテルに行き、夜になったが、少し夜更かしをしてしまい、先生に注意を受けたのも良い思い出になった。

#### 6日目

##### 7組 浅野 光軌

最終日、時計を見ると5時。起きてから何をしてもなく、何となく時間が過ぎていく。みんなが起きてくる。朝食を食べる。そして、部屋に戻る。何となく他の部屋に行きトランプなどをして時間を過ごした。帰る準備は前日の夜に済ませていたので、心配なく朝から遊んだ。

その時、時間が経つのがとても早く感じた。いつの間にか集合の時間になり、バスに乗り、空港に着き、飛行機に乗っていた。行きでは、暇で仕方がなくとても長く感じられたフライトも帰りは、短く感じた。気がつくとも関西空港に着いていた。外は薄暗く雨が少し降っていた。オーストラリアに着いたときも、雨が

降っていてテンションが少し下がったことが、昨日のことのように思えた。下湖駐車場に着いても、まだ帰ってきた実感がなかった。

親を見つけて家に帰り、改めて親に「おかえり」と言われたときに気付いた。修学旅行は終わり、ちゃんと日本に帰ってきたことを。また明日からいつものような日常に戻るのだと。

##### 1組 岡野 敢太

部屋へ戻ると手荷物の最終確認をして、ケアンズ空港へのバスに乗り込んだ。修学旅行中の思い出を振り返ってみると、窓の外を流れる景色とともに後ろへ隠れては異なる思い出が浮かぶ。それらが交互に現れた。

あつという間に空港に着いた。午前8時頃ということもあって人はあまりいなかった。スーツケースを預けて、出国審査を終えて、1時間の自由時間に入った。オーストラリアで最後の買い物ができる場所というところもあり様々なものを買っておいだ。航空機に乗り込み、座席に座るとオーストラリアの修学旅行の終焉を知らせるかのごとく航空機はバツ

クを始めた。独特の轟音と共に離陸し、急旋回したときに窓の外を見ると、別れを告げるかのようにケアンズの海が見えた。それは次第に遠くなり、見えなくなると、次に見るのはどれほど先のことだろうかと思いを巡らせた。機内サービスが一度終わり、しばらくすると暇な時間が出来た。撮りためた写真を見ながらこの紀行文の作成にとりかかった。しかし、思いの外、進まず買っておいた数独をして時間を過ごした。関西空港に着き、足早にバスに乗り込む。徐々に外は暗くなるのに反して、大阪、神戸の港は明るさを増し、日本へ帰ってきたことを示すものであった。

「帰るまでが修学旅行。」某先生から何度も言われた言葉。心の片隅にしまい家に着いた。

# 高2修学旅行 シンガポール・マレーシアコース

## 1日目

**4組 大住 彩音**  
朝早くからの集合でしたが全員遅刻することなく集合できました。

海外には何度か行ったことがありますがシンガポールは初めてだったのでとても楽しみでした。シンガポールに着くとビルの高さにおどろきました。夕食は中華料理でしたが、日本食のおいしさにあ



らためて気付き恋しくなった1日目でした。ホテルはとても良い所に泊めさせて頂きぐっすり眠れました。2日目のプログラムB&Sでの現地学生さんとの出会い、そしてマレーシアのホームステイ先の家族との出会いを楽しみに…!

## 2日目

### 4組 豊田 真子

2日目。まずマライオン公園に行つた。写真ではよく見ていたが実際に見ると大きくとても迫力があつた。次はシンガポールで最高級のホテル、「マリィナベイサンズホテル」を見学した。最上階から見る景色は絶景だつた。とても印象に残つたホテルだつた。

ブラザーアンドシスタープログラムでは現地の大学生と一緒に案内してもらつた。まず地下鉄を使って中国圏のエリアを散策した。お土産や食べ物が置いてあるお店がよく目についた。また昼食も一緒に食べた。有名なお土産を教えるも

## 3日目

### 7組 佐藤 茜胡

らったりもした。事前学習で得た情報を存分に使えた。このプログラムを通して異国文化を体験でき、日本の良い所も見えて、とてもいい経験になった。2日目は充実しつつ異文化を体験した貴重な時間になった。

シンガポールでむかえた2度目の朝。ホテルで朝食をとり、皆、昨日より少し大きな荷物と期待と不安を持ってマレーシアへとバスで向かつた。陸路で国境を越えることは日本ではあり得ない事だが、シンガポールとマレーシアは週末になると互いの国を行き来することが多いらしい。入国手続きは意外とすんなり終わり、モスクへ行つた後、マレー文化村へ行きロウケツ染めを体験した。村に着き説明を聞きはじめた途端、スコールにあり皆驚いた。昼食をとつた後、プライ村に向かつた。入村式のような会の後

各々のホストファミリーの家へと向かつた。家ではチョンカというビー玉を使う遊びをしたり、ジャラン（散歩）をしたりした。夕食は床に座り、右手で食べた。夜は各ホームステイ先で民族衣装を着てホールの様などころへ集まり、模擬結婚式を見て3日目は終わった。

## 4日目

### 7組 渡辺奈南子

マレーシアのホームステイを無事終了し、またシンガポールへ入国した。

セントーサ島につき、皆ワクワクして胸が高まっているのが簡単に分かつた。女子のグループはほとんどユニバーサルへ行った。まず苦戦したのはロッカード。日本とはまったく違うシステムでもとても難しかった。その後は、様々な乗り物に乗って楽しんだ。お土産を買うときは、いったい日本円でどれくらいなのか分からなかつたが、ちゃんと計算しながらかわいなお土産をたくさん買った。

修学旅行での最後のイベントはナイトサファリだ。夜に動物を見ることは初めてでもドキドキしていた。バスでゆっくり走っていき、様々な種類の動物

を見る事ができた。ゾウなどの大型動物も至近距離で見られ、貴重な体験をした。

## 5日目

### 4組 植田なつみ

5日目は観光もすべて終わり、後は帰るだけでした。飛行機の便が深夜出発だったので少し変な感じがしました。チャンギ空港の自由時間では疲れて寝るかと思つていただけ、意外と元気でした。しかし、飛行機に乗るとみんな寝ていたと思います。長時間の機内滞在は体が痛くなりました。

仁川空港では関西空港着組と岡山空港着組に別れました。私は関西空港着組だったので仁川空港に着いたらすぐに飛行機に乗りました。岡山空港着組の人は偶然EXOに会えたらしいです。韓国の有名なアイドルなのでとてもうらやましかったです。

関西国際空港に着くと日本に帰ってきたなと実感しました。やはり日本は快適です。ごしやすい国だと思います。



# 国際化教育推進委員会

多くの外国人の皆様を受け入れ、交流した2学期  
金光学園のグローバル化もここまで進んだ!!

○オーストラリア Radford College  
13名(9/24(木)〜30(水))  
○オーストラリア Merici College  
15名(9/28(月)〜10/4(日))

○京都アメリカ大学コンソーシアム  
19名(10/2(金)〜4(日))  
○ニュージーランド・クライストチャーチ市(倉敷市姉妹都市)  
学生親善使節1名(10/3(土)・5(月)・7(水)・9(金)・10(土))  
○オーストラリア・ティーツリーガリー市(浅口市姉妹都市) モデブリー高校生  
1名(10/3(土))  
1名(11/11(水))

○JENESYS2.0中国高校生訪日団  
32名(12/14(月))

○オーストラリア Radford College & Merici College

2013年12月に本校を訪問された Merici College のラム直子先生(本校卒業生)のご紹介もあり、2つのCollegeが Japan Tour 3週間のメイン企画として金光学園を訪問、それぞれ6泊7日のホームステイと学校生活を体験した。受け入れに際して、合わせて26家庭にホストファミリーを引き受けていただき、食事や宿泊など、心のこもったおもてなしをしていただいた。

《主な活動》  
Radford College  
高校体育会参加 広島研修(平和記念公園・お好みやき・野球観戦)

## 文系探究Ⅱ国際化発表会 (英語プレゼン発表)

京都アメリカ大学コンソーシアム学生と Merici College 生徒の来校に合わせて、10月2日(金)に高校2年文系探究Ⅱの発表会を開催した。36名が5つのテーマに分かれて研究している内容を、パワーポイントを使って英語でプレゼンをし、留学生や助言者の質問に答える形で行った。本校では理系探究の英語発表会は毎年行っているが、文系は今回が初めてで、

研究内容はもちろん、パワーポイントの作り方や質疑応答の英語力などの課題を助言者から指摘していただいた。今後の取組に役立てていきたい。

本校生徒の発表に先立ち、全体会で Merici College 生徒の皆さんによるファッションショーを開催した。身につけた衣装はすべて生徒たちの手作りで、工夫を凝らしたデザインや着こなしに、会場からは大きな歓声と拍手が起こり、好評を博した。

## SGHアンシエイト事業 「EUがあなたの学校にやってくる」

11月11日(水)に、ドイツ連邦共和国大使館よりモニカ・マリア・ゾンマー参事官と通訳の岩村偉史さんをお招きして、「EUがあなたの学校にやってくる」を開催した。高校2年7組、1年1組・6組と中高の希望者と保護者合わせて約150名が参加し、前半は英語で、後半はドイツ語(日本語通訳)で、「EUとは何か」や「EUの歴史」などの基本情報や、「ドイツと日本の関わり」や「難民の受け入れ」など最新の情勢について話された。質疑



応答も英語でなされ、EUやドイツについて理解を深めることができた。講演終了後は、国際交流クラブと希望者合わせて20名余りで「ゾンマー参事官を囲む会」を開き、講演で聞けなかった質問や、「好きな日本の食べ物は何?」「大使館での仕事は?」など身近な質問をして、短いながらも和やかな雰囲気での交流した。



8/20(木)  
~24(月)

行ってきました！

## 韓国・春川女子高等学校 第6回姉妹校交流

8月20日(木)から8月24日(月)までの5日間、韓国にある姉妹校、春川女子高等学校にて姉妹校交流が行われました。今回は6度目となるこの交流プログラムには、初めて中2の生徒が1名参加し、高1の生徒が9名、男子生徒4名を含む高2の生徒が5名の計15名が参加し、有意義な時を過ごしました。全員、春川女子高校の生徒の家庭に一人ずつ滞在させていただき、ホストシスターと共に様々な体験をしました。学校で英語や体育の授業を受けたり、礼拝室で韓服体験をしたり、日本語歌謡大会で歌やダンスを披露したり、ソウル観光をしたり、日曜日をファミリーと一緒に過ごしたりして、たった5日間で築いたとは思えない強い絆が生まれました。お互いが「近

くて近い国」ではなく、「近いからこそもっと近い国」であることを実感できる貴重な交流となりました。母国語が異なる国の同年代の若者と触れ合い、英語や韓国語や日本語で意思疎通を図り、国際感覚を身に付けた生徒たちはみな、ひとまわり大きく成長して戻って来ました。

3度目となる春川女子との交流を経験して

高1 藤川 美帆

正直なところ、私にとって今回の春川女子訪問は本当に不安が大きく、あまり乗り気ではなかった。しかし、私の持つて帰った思い出はどれも、キラキラした宝石の様な素晴らしい思い出ばかりだった。私がこの経験で学んだことが2つあ

る。  
1つ目は「百聞は一見にしかず」ということだ。「韓国人は思ったことをストレートに言う国民性だ」とか「プライドが高い」などという情報を耳にしていたのだが、春川女子の方々には日本人より謙虚で、相手への配慮や歓迎を惜しまなかった。「いつか、日本と韓国は和解できる」と、心から思った。  
2つ目は、日本の良いところと悪いところを、韓国を通して知ることができた点だ。まずは良いところから。街行く日本人はとても礼儀正しいと思う。ぶつかったりしたら、自分が悪くなくても「すみません」と非を認めるような発言をする例が多いが、韓国では違った。店員の客に対する態度も日本の方がはるかに良く、「さすが、サービスマンと言われることはあるな」と思った。次に、悪いところ。授業態度は、韓国の学生の方が段違いに良かった。みんなで先生の質問に答え、黒板に書かれなくてもポイントはノートにメモする。当たり前のように、それが行われていた。また、日本歌謡祭の時の盛り上がり方もギャップがあって素晴らしいと思った。本当に見習いたい。



この度の経験を通して、私は、私が出会った春川女子のみんなとの差が少しでも縮まるように勉強を頑張ろうと思っただ。また、今後の国際交流の場で、一味違った楽しみ方ができるようになると思う。これからの人生で挫けそうになった時、きつとこの思い出が大きな自信になるだろう。

海の向こうの家族と親友

高2 目黒 達之

ホストファミリーと交わした会話、クラスの友達との優しさ、思い出すだけで涙が溢れ出そうだ。旅を振り返ってみると、春川のみなさんの温かさに包まれた、最高に充実した時間を過ごすことができたと思う。

ホームステイでは、ホストファミリーと日韓お互いのことについて、夜遅くまで毎日語り合った。言葉は分からないが、英語と互いの国の言語を使うことによって、心を通わすことができた気がする。会話中、日本語と韓国語で同じような発音の言葉を見つけると、とても盛り上がった。また、いつも僕を楽しませようとしてくれてるのが分かって、非常に嬉しかった。短い期間だったが、家族の一員になれた気がして、本当に胸が熱くなった。

心が温まったのはホームステイだけではない。廊下を歩いていると沢山の生徒があいさつをしてくれた。春川の学校全体が金光学園の生徒を歓迎してくれているようで、感動した。特にホストシスター

が所属する2年7組のみんなは、熱烈な歓迎をしてくれ、出発前の言葉通り、スターになったような気分を味わえた。音楽の授業で、その日にあった日本歌謡大会の練習をみんなで一生懸命している姿を見て、嬉しくてつい一緒に歌ってしまった。彼女たちの歌声から、日本のことを思ってくれているなあと感じ、うるつときた。さらに、春川最後の夜は、クラスの何人かが僕たちのために集まってくれた。春川名物タッカルビを食べべに連れて行ってくれたり、公園で一緒に手遊びをしてピンス（かき氷）を食べべたり、綺麗な夜景の中を歩いたりもした。短い滞在期間の中で、親友同士の輪の中に入れてもらって、あんなにも楽しい時間を共有でき、言葉では言い表せないぐらい感動した。学校を去る時もクラスのみんなが駆け付けてくれて、寂しさと感動で思わず泣いてしまった。また近い将来の再会を約束した。

こんなにも素晴らしい体験をすることができたのは、ホストファミリーを始めとする春川女子高校のみなさんのおかげだと思う。この様な機会に僕を導いてくれた、学園の先生方、両親にも感謝して



いる。また、学園と春川女子高校の「姉妹校」という関係があったからこそだと思ふ。そして、お互いの高校の先輩方が築いた友情、そして強い絆のおかげだと思ふ。その様な素晴らしい交流に、この度自分が関わられたことを本当に嬉しく思ふし、これからもその絆のバトンをいつまでも繋いでいってほしい。また、送別式の時に春川女子の校長先生、そして学園の副校長先生がおっしゃっていた言葉



に強く感銘を受けた。「これからの未来に生きる僕たちの世代の手によって、両国の絆を深めていってほしい」という内容だ。このことを忘れず、これからも遠くから僕のことを思ってくれている春川の方々のためにも日々精進していきたい。本当にありがとうございました。カムサハムニダ。

# ほつま祭

## ありがとうの輪

### 中1 3組 西岡 瑞葉

ほつま祭。それは、1年間の中で大きなイベントの一つだ。

みんなで協力して準備をし、一人一人が目標を持ってやる。それが私の目指すほつま祭だった。

ほつま祭は、6年生の時に行ったオーブンスクールで初めて知った。とても感動した。気持ちの良いあいさつ、とても親切な案内、楽しそうな良い雰囲気、私もこの中に入れたらいいだろうなと思つた。そしてやる側としての初めてのほつま祭。楽しみで楽しみでしょうがなかった。夏休みから頑張ってきたものがようやくみんなに見てもらえる。そう思うとさらにわくわくした。

そしていよいよ当日。開会式が終わり、お客様がどんどん教室に入ってきた。オーブンスクールとして来ている小学生もたくさんいた。みんな笑顔だった。

自分達で造ったもので笑顔になつてもうのは本当に嬉しかった。頑張つて準備してきて良かったなと思つた。

その後、係のちがう人口側から出口側に移動した。世界遺産の『行つてみたいアンケート』に協力してもらうために、シールをわたす係だった。出口のところにいる係だったので、「ありがとうございました。」と言うと、ほとんどのお客様が、「ありがとう。」と返してくれた。そして笑顔で帰ってもらえた。こんなに気持ちの良い会話は初めてだった。こういう会話からほつま祭の「楽しそうな良い雰囲気」が生まれてくるんだなと思つた。そういうものをつくるためには自分の事だけでなく、手に喜んでもらえる方法を考えることが必要なんだなと改めて思つた。

それから、自分がお客様として展示会場をまわる時、会場に入る時、出る時。



たくさんの方が「ありがとう。」という言葉がたくさんかけてくれた。お客様側にも「ありがとう。」ってこんなに嬉しい言葉だったのか。と思つた。

1日目も2日目も、とても楽しかった。高校生の展示、演劇もみる事ができた。今回のほつま祭は、良い勉強にもなったし、一つの思い出としても心に残つた。一つの学校行事としても心に残つた。次ほつま祭があるときには、また別の視点から造り上げなければいけない。そのため、今回学んだことをしっかりと覚えておいて、活かせるようにしたいと思つた。「ありがとう。」の意味を本当に知つた2日間だった。

## 「ほつま祭」

### 中2 4組 東 あすか

2日間のほつま祭は無事終わりました。今回のほつま祭の準備期間はすごく短く感じました。その上、とても楽しかったです。

私たちのクラスは模造紙を書かないという方向で話が進んでいました。だから、みんなで作れる精一杯の物を作りたい、そう思いました。先生や実行委員の人の

発想はさまざまで、したことのない経験ができました。

泥団子。夏休み、みんなで教室に集まって作りました。二人一組になって形から最後の光沢をつける時までみんなで一緒に作れてとても楽しかったです。

でも、一番つらくて楽しかったこと、それは壁画です。毎日毎日。女子みんな残っていました。黒、茶色、2色の砂を紙につけるのはとても大変でした。でも、最後にはクラス全員で力を合わせて完成することができました。その壁画は、実習生の藤田先生と撮った写真です。だから、完成した時はとてもうれしくて、クラスみんなが団結できたように思います。

手形や砂アートなど、他にも作り上げることができました。そして、当日、私はクラスで説明などをしていると、たくさんの人から、「すごいね。」や「同



じ中2が作ったとは思えない。」などというびつくりしたような声をたくさんいただきました。その時は、クラスみんな協力して完成させた「砂」がとても誇らしく思いました。

今年のテーマは「砂」。私たちは毎日楽しく協力して、このほつま祭を完成させることができました。そして、来てくださったたくさんの方に、「すごい」などと言ってもらい、とても嬉しかったです。4組は、授業中うるさくて、たくさん先生の迷惑をかけていると思います。でも、行事では協力して、とてもいいものを創ることができました。だから、次の体育会では、クラスや兄弟学級みんな協力して優勝したいです。

### 「It's our school」39人の最高のクラス♡

中3 4組 有田 翔

「出欠とりまです、アユレレイ番号!」…。本番までなかなかそろわなかった39人の生徒や先生。でも本番5分前に数えてみると全員いた。「やった。クラス全員の劇ができる」。そう思った。正直、最初はキャストが偉いと思っていた。でも練

けた。でも「これ乗り越えたクラスがグランプリをとれるんだ」と自分に言い聞かせ、なんとか頑張ることができた。そして1日目、5組と3組がすごくいい劇をした。焦ってその日は納得がいくまで練習した。本番の朝も少ししか時間をがないのに僕の不安なところを言うと、そこを練習させてくれた。「笑顔で楽しくやればグランプリはついてくる」。ある友だちが言ったその言葉を胸に精一杯の演技をした。終わってからの達成感は何のすぐくて、とても楽しかった。あと半年くらい時間を、この最高のクラスで過ごせるのはとても嬉しい。



### ほつま祭

高1 6組 西川 華

「第1位は…。1年6組!!」びつくりした。グランプリがとれるなんて思ってもいなかった。だからとても嬉しかった。

私たちのクラスは展示をすることになった。展示は中1の時以来だったので、

少し不安だった。そのうえ、私は友達にクラスの実行委員をやらうと誘われ、実行委員になった。私は人前に出たり、みんなを仕切ったりすることが苦手だったので、ほつま祭を無事成功に導けるのだろうか。と悩むことが多かった。しかし、そんな私の考えとは裏腹に、準備が始まってくると積極的に動いてくれるクラスメイトの姿がたくさんあり、とても嬉しくなった。短期間でテーマを探し調べ、クラスの装飾をするということはなかなか難しいことであつたけれど、一人一人が自らの仕事に責任を持ち、最後まで働いてくれていたときにはこのクラスで良かった、実行委員をして良かったと心から思った。そして、お互いを助け合い協力することで生まれる力は、計り知れないものであった。苦手なことこそ取り組むことで強くなれる、そのことを実感できたほつま祭になった。



### リーダーの大切さを学んだ

高2 7組 目黒 達之

「高校演劇の部1位7組」この言葉を聞いたとき、感激で胸一杯になった。7組全体で頑張った結果だっと思う。今回の取り組みを通じて、強く感じたことがある。それは「リーダーの大変さ」である。僕は今回実行委員(クラス)の一員として側でリーダーを見ていた。リーダーだった伸樹君は、仕事をみんなに振り分けたり、もうちょっと練習に付き合うように頼んだり、言いづらいこともはつきりと伝えていた。自分はまだまだ優柔不断なところがあり、みんなへあんなにピシッと指示は出せないなと感心して見ていた。そして、その伸樹の伝えたいことに忙しい中、応えてくれたクラス全員の協力がなるとあの劇は完成しなかったと思う。この成果を本番みんなでも出し切れて本当に良かった。ありがたいとござい



# 中学 体育会



## 初めての体育会

1年1組 佐藤 大

10月3日に初めての体育会があった。この経験を通じて、印象に残ったことが2つある。1つは、先輩のやさしさだ。入学してからずっと、僕が入部している部の先輩たちとはとても優しい。応援合戦の取り組みが始まる前、他の部で活動する先輩たちも同じように優しいのだろうか、少し不安に感じていた。しかし、練習初日から、どの先輩もとても優しく接してくださったのが非常に印象に残った。僕も、2年生や3年生になったら、どんな人にも優しく接することのできる人間になりたいと思った。

2つ目は、3年生の先輩方の本気さだ。体育会の練習の時は、誰よりも3年生が一番声を出し、みんなをまとめてくださった。僕も先輩の立場に立つたら、みんなをまとめる力と、どんな小さなことでも本気で取り組める力を持ちたいと思った。

体育会が終わってから気付いたこともある。それは、先生方や保護者の方々の支えもあって、体育会が成功に終わったということだ。体育会前日は、まるでプー

ルのようなグラウンドだったのだが、

先生方が一生懸命水抜きをしてくださり、絶好のコンディションで体育会を行うことができた。また、保護者の方々の大きな声援があったことで、大いに盛り上がったのだと思う。心から感謝している。

これからも色々な行事が行われるが、積極的に参加し、その一つ一つを楽しんで取り組んでいこうと思っている。初めての体育会は、とても楽しかった。



## 5組の団結力

1年5組 中務 彩乃

今日は待ちに待った体育会。今まで積み重ねてきた練習の成果を十分に発揮できるよう、応援合戦では、精一杯、5組らしい演技をしようと思った。私が、胸を張って「頑張った」と言えることが2つある。

1つ目は綱引きだ。それまでの競技で

は、5組はあまりいい成績を残せていなかった。しかし、先輩方は「次、次！」と前向きな温かい声をかけてくださった。そんな先輩方の優しく強い姿を目にして、私の心の中ではいつしか「先輩のために」という気持ちが強まっていった。そんな気持ちが1年生のみんなにもあったからこそ、綱引きで5組は1位になれたのだと思う。1位が決まった時の先輩方の最高の笑顔に私たちがまで笑顔がこぼれ、5組全体が団結できた最高の瞬間だったと思う。

2つ目は、やはり一番多くの時間を費やした応援合戦だ。テーマは「和雅勝舞」。和をテーマにしており、他とは異なる雰囲気、本番が一層楽しみになった。そして、迎えた本番。ディズニースタイルの場所では笑顔で、その後は力強く5組らしい最高の演技となった。今年度の1、2、3年生の5組全員で作上げた舞台は、一生の宝物になった。

結果は、目標としていたものには及ばなかったが、「応援の部優勝」という素晴らしい



い賞をいただいた。運動神経とかに関係なく、5組らしい応援を「1位」と評価されたことが私よりも嬉しかった。最後に青空に向かって投げた白い帽子は、私の思い出に残る青春の1ページとなった。5組最高!!

## 絆でつかんだ2組の優勝

2年2組 川口 大城

1年あつという間に経ち、今年で2年目の体育会。今年も晴れ晴れとしたい。天気は恵まれた。去年も2組で、総合優勝はできなかったけど、学年では優勝できた。だから、今年の体育会は必ず優勝してやるという強い気持ちを持った。

正直、今年の2組は優勝できないと思った。その理由は、大縄であった。体育の時間に長縄の練習をしたけど、みんなはしゃべったりして言うことを聞かない。僕は本気でやっているのという気持ちがあり、怒りを少し感じることもあった。1分30秒という短い時間でどれだけ縄にひっつかか

ワーク良く団結してやらないと1位は狙えない。2組以外の組は10回以上跳んでいただけ、2組だけが1桁の回数しか跳べない。とても悔しかった。

いよいよ本番。もう無理かなと思

いながら跳んだ長縄。しかし、ここから2組の奇跡とドラマが始まった。本番になると、なぜかみんなとても跳べて、29回というすばらしい結果になった。驚きと感動が僕の胸に響いた。みんなの心が一つになり、2組のテーマでもある、キープスマイルのよう



うに最後まで笑顔で戦うことができた。応援合戦では、僕は副団長を務めた。やりたくなくて、無理やりでもあったが、団長、チア、副団長、副チアの先輩、そして、同級生の副チアの澄川さんたちが頑張っている姿を見て、僕も頑張ろうと思った。

体育会では、総合優勝と学年優勝ができてとても嬉しかった。最後には、副団

長でよかったと思うことができ、最高の思い出となった。チア、副チアの先輩はみんなを引っ張っていて、とても立派で、団長は声をしっかりと出して、3年生たちもしっかりとサポートしてよかった。来年は、僕たちが、今年の3年生のように堂々として優勝したい。

## 体育会

### 2年3組 平松 果奈

金光学園で2回目の体育会。残念ながら優勝はできなかったけれど、負けたり勝ったりしたことで、学べたことがあった。

私の種目は、障害物競走とクラス対抗リレーで、障害物競走はとても残念な結果だった。ネットをくぐっている途中、靴が脱げてしまったのと、転んだのでみんなに抜かれてしまい、ビリになってしまった。その時は、「最悪」としか思えなかった。同じ3組で1位をとって喜んでいる人もいたのに、私のせいで、その人の頑張りが無駄になってしまった



……と思うと、申し訳なかった。それでも友達は、落ち込んでいた私に、「大丈夫だよ、私だってビリだったもん」や「最初の方はすごく早くてびっくりしたよ」「他の種目で取り返そう」と、なぐさめてくれた。その一言が嬉しくて、私の心にしみ込んでいくようだった。友達のおかげで、笑顔を取り戻すことができた。次こそはと、気を取り直して臨んだクラス対抗リレーでは、私は風船運びに参加した。3組はとも流れが良かった。リレーの中でラストの風船運び、団子四兄弟のメンバーからバトンをキャッチすると、私たちは走ることを考えた。ペアの友達が風船を割ることになっていて、「パンツ」という音と同時に、3組の中から歓声が上がった。障害物がだめだった分、本当に嬉しかった。得点板の数字の中に、自分が入っている気になった。

結果は優勝できなかったけれど、勝ったり負けたり、足を引く張ったり引く張られたり、点を取られたり取り返したりするから、ドキドキして楽しいのだ

よく怒られました。しかし、だんだんと自分の立場が分かってきて、積極的に後輩にダンスなどを教えていくことに取り組んでいきました。すると、後輩とどんな感じでいきました。「ダンスを教えてください」と言ってきたことは、僕にとつてとてもうれしい経験となりました。そして、何より同学年の仲間から頼りにされたこと。それが本当に自分の中で達成感に変わっていきました。そして本番、順位は良いものではなかったけれど、終わった後、みんな最高の笑顔をしていました。これこそ、今回2組が目標にしていた「Keep Smile」だと思います。

このように今回の体育会では、クラスの団結力だけではなく、学年に関わらずみんなで楽しめた体育会だと思います。そして、兄弟学級の1位という結果は、2組の団結力そのものの結果だと思いません。最後に2組大好き。2組でよかったです。

## 今までにない応援合戦

### 3年5組 稲川実咲希

「応援合戦の部。1位：5組」  
その言葉を聞いた瞬間、言葉では表し切

れないほどの幸福感で胸がいっぱいになった。

体育会前の2週間は今までが一番短く感じ、あつという間だった。私たち5組は、今までは違う応援合戦を目指し、クラス全員が一丸となって頑張った。

今までにない応援合戦をするには、たくさんの新しい考えが必要となった。いくつかの案を出し合いながら、決まったのは「和」をコンセプトにした「和雅勝舞」世界に咲き誇れ「Japanese Festival」というテーマ。ダンスはみんなで1つの物を創り上げる集団演舞という形にした。

しかし、みんなで1つの物を創り上げるといのは決して簡単なことではなかった。他のクラスの友達は「2曲、みんなが覚えることができた」と言っている中、5組は、各自では覚えただけ、さらにそれを全体で合わせるという練習も必要で、私には焦る気持ちが出てきた。そして、その気持ちは時に、合わせが上手いかなということへの怒りへと変わってしまうことがあった。そんな時だ。団長に、「焦る必要はない。ゆっくりでいいからきちんとしよう」と言われたのは。気持ち

思う。それに私は、なぐさめてもらって友情が強まり、そこで負けてしまうことも悪いことじゃないと感じた。負けることにも意味があることを忘れないようにしたい。

来年、私たちは中学最後の体育会。目指すは優勝！だけど、今回の体育会で感じたことを全て心に入れて取り組もうと思っ。

## 最後の体育祭を終えて

### 3年2組 福井 悠人

中学校最後の体育会を終えて、自分自身今までにないほど達成感を得ることができました。

自分の種目は1つだけでしたが、その分応援合戦などに力を入れることができました。

応援合戦、初めての最高学年でした。初めの方は、僕自身あまりやる気がですが、3年であるにも関わらず、チアなどから

が本当に楽になった。また、中3は幹部以外の団員も新しいダンスを覚えてきてくれたり、曲と一緒に考えてくれたり、みんなが助けてくれた。「和」ということで、衣装を考えるのもマスコットを作るのにも、今までにないものだから、どんなものになるのか不安も大きかった。しかし、出来上がった物は「和」を十分感じることができ、私達団員に頑張ろうと思える力をくれる素晴らしいものであった。

私は、お互いが助け合っていていけるこの5組で本当に良かったと思った。そして副チアをさせてもらい、たくさんの経験ができたことも。

みんなが一丸となって完成させたこの応援合戦で1位をとることができたことは、一生忘れることのない大切な思い出となった。





# 生徒入賞作品

## ▼第61回青少年読書感想文 岡山県コンクール 自由図書

佳作

「一止」の生き方

高2 1組 久安 悟史

テレビドラマなどで、「人はとにかく前を向いて歩いていけばよい。」といったニュアンスの言葉が流れてくることがよくある。以前の自分であれば、その意見に全面的に賛同していたであろう。しかし、この「神様のカルテ」なる本を読了した現在の自分は、考えが少しばかり変わっている。時にはその場で歩みを止めて、じっくり考えるということも必要なのだと考えるようになった。こう考えを変えるに至ったのは、きっと主人公である栗原一止に触発されたからだろう。

栗原一止は、多少偏屈であることを除けば、厚情な好青年医師だ。目の前にいる患者を放っておけないが故に、とにかく前に突き進む。その突き進みようは、一人の患者の薬の調節を行うためだけ

学士殿と別れる際には「いつでも帰って参れ」と言った。きっと、学士殿の姿と自分の姿を重ねて、前に進むだけでなく、時には立ち止まらなくてはならないと考えたのだと思う。そんな思いが紡いだこの言葉に栗原一止の人としての成長を感じられた。

人として成長した一止は、第三話であることをした。胆のう癌患者の安曇さんの願いを聞き入れて病院の屋上に連れ出し、死ぬ前にもう一度食べたいと言っていた文明堂のカステラを食べさせた。そして安曇さんが亡くなる直前、あらゆる延命措置を行わず、静かに息を引き取らせることを選んだのだ。これらの行動は、一般的には言語道断の行動だろう。それでも一止がこれらを行ったのは、一度立ち止まって考えたからであろう。安曇さんが本当に欲している最期は、果たして何なのかということ。それを考え抜いたからこそ行えたのだろう。そしてそれだけ考えたからこそ、安曇さんの手紙に心から涙を流せたのだろう。純粹無垢な好青年の栗原一止は、様々な人達と巡り合う内に、立ち止まって考えることを身に付けたのだ。

これでよいーと一止は最期に叫んだ。

に、三日間病院に泊まり込むほどである。第一話では、そんな前進し続ける栗原一止を見た。しかし、前進し続けるだけでは完全には乗り越えられないのが、人々失う悲しみである。田川さんが亡くなった時、一止は「悲しむのは苦手だ」と実感していた。この時の一止は、医師として、田川さんという患者を助けようと必死になっていた。だからこそ、田川さんが亡くなった時に、頭では死を受け入れられていても、心からは受け入れられなかったのではないかと思う。医師で、ましてや地方の病院ともなれば、高齢の患者を看取るという体験は多くしてきたであろう。だから、一人の患者が亡くなったことを、いつまでも引きずってはいられないと思ひ、次に進もうとしたのだろうと思う。

しかし、人を失った悲しみを咀嚼するには、立ち止まり考える必要があると自分は思う。一年ほど前に、自分は病気で祖父を亡くした。亡くなる数ヶ月前から容態が思わしくなかったため、いつ亡く

自分はその言葉に頷いた。色んな物事が暴風雨のように襲ってくるこの時代、人とはにかく前に進まなければならないのかもしれない。しかし、前進だけでは越えられないこともある。その時は、今一度その場に立ち止まり、地に槌を振るえばよい。そうして得たもので乗り越えればよい。この本のおかげで、そう考えられるようになった。自分は栗原一止が教えてくれた生き方を実践したいと思う。栗原一止の名は、一に止まると書く。合わせると正の字になる。「一度」止まってみて考えれば、「正」しい答えはおのずと見えてくる。そう伝えられているような気がしてならない。ならば自分も、「一止」の生き方で生きてみようと思う。人生の最後に、これでよかった！なんて叫べるように。

## ▼第13回永瀬清子賞

優秀賞

『じいちゃんの終戦の日』

中2 吉田 匠一郎

僕のじいちゃんは昭和二年十一月一日生まれただいま、八十七歳である

なってもおかしくはなかった。自分も覚悟は出来ていたつもりだった。しかし、葬式が終わった途端に、悲しみが込み上げてきてしまった。生前の祖父の気難しい表情や祖母と会話している姿が次々に浮かんできて、悲しくて仕方がなかった。そうしてひとしきり悲しんだ後は、不思議とすつきりしていたのを覚えていく。きっと、一度立ち止まって祖父が亡くなった悲しみを咀嚼できたことで、心から死を受け入れられた結果だと思ふ。一止は立ち止まらずに田川さんの死を受け入れようとしたから、心から悲しめなかったのだと思う。医師にとつての死は乗り越えられたが、人にとつての死は上手く乗り越えられなかったから、「悲しむのは苦手だ」と実感したのだと思う。医師としてそれでよいのだろうか。しかし、人としてそれでよいのだろうか、と自分は思った。

第二話で学士殿が帰郷する時から、栗原一止は人を失うことを立ち止まって考えるようになった。勉学をずっと続け、前に進んでいた学士殿が自殺を謀った時、一止は学士殿に「笑う者あらば笑うがいい。」と言った。これは前進し続けた学士殿を励ますための言葉だが、その後

僕のじいちゃんは学徒動員で

三重県鈴鹿の海軍工しようへ行かされた

僕のじいちゃんは

食べる物に困った事などなかったのにそこでは とてもひもじい思いをした

ある日 ごちそうを食べている

自分と同じ位の年の人達を見つけた

「何で あんた達だけ うまい物を食っているんだ？」

「…僕達は 海軍の特攻なのです。」

すぐ様 帽子を取り

「失礼しました

御武運をおいのりいたします。」と頭を下げた

「腹いっぱい飯を食うて死にたいな。」

友達との合い言葉だった

僕のじいちゃんは

広島に原爆が落とされた事は

特殊な爆弾が落とされたとして知っていたが、長崎に原爆が落とされた事は知らなかった

国内の情報も知らされぬまま、  
じいちゃん達は、  
毎日、空襲警報の音におびえながら  
アメリカ軍の飛行機だけが飛んでいるの  
を見ながら  
命がけの日々を送っていたのだ  
昭和二十年八月十五日正午  
じいちゃん達は 広場に集められ  
玉音放送をきいた  
そして 泣いた  
日本が負けた事を泣いた  
僕のじいちゃんは  
八月二十三日 里庄へ帰って来た  
里庄駅から家までの道を歩きながら  
ふるりに 生きて帰って来られたことが  
うれしくて 涙がこぼれた  
この日が  
僕のじいちゃんの終戦日である。  
そして  
僕のじいちゃんが  
生きて帰ってくれたから  
僕が 今 ここに いる

## 生徒会活動

**ほつま祭** 9月12・13日の2日間、統一  
テーマ「Peace & Happiness」幸せと平  
和は共にある」を掲げて、日ごろの成  
果を発表した。文化部・同好会13団体と  
数学クラブが展示部門に、ダンス部、音  
楽部吹奏楽団、コーラス、軽音楽部が演  
技部門で日ごろの成果を発揮した。また、  
中高各クラスは展示15団体、演技13団体  
が発表を行った。高3有志の模擬店では  
生徒が生き生きと活動し、今年も大盛況  
であった。やつなみ保護者会はスタンド  
グラスの展示、体験が行われた。また、  
今年も友愛セールや模擬店が盛況であっ  
た。

ほつま祭期間中には「一日入学PAR  
T II」として、小学生を対象にスタンブ  
ラーが行われ、併せて入試相談コー  
ナーも設けられた。  
テーマにふさわしい、各クラスの個性  
が発揮された取り組みとなった。

### 入賞おめでとう

#### ▼税についての作文

協力会会長賞 中1 中務 彩乃  
法人会会長賞 中3 荒島 美音

#### ▼税についての習字

浅口租推会長賞 中3 中原 悠亮  
納貯会長賞 中1 中塚 萌々



#### ▼ライオンズクラブ国際平和ポスター・コンテスト

最優秀賞 中2 有馬 愛佳  
優秀賞 中1 笠原 麻由  
優秀賞 中1 西岡 瑞葉

#### ▼明るい選挙啓発ポスター

特選 中3 茅野亜依子  
入選 中1 望月 杏奈  
入選 中3 虫明 春哉

#### ▼第30回「WE LOVE ユンボ」絵画コンクール

銀賞 中1 久保かりん

#### ▼第4回 河野裕子短歌賞

高校生の部入選 高1 岡 優真

#### ▼大阪経済大学第15回高校生フォーラム「17歳からのメッセージ」

銀賞 高1 河野 鈴花

#### ▼公益社団法人 創玄書道会 第52回全国競書大会

優秀団体賞

なお、コンテストの結果は次のとおり  
である。

#### ▼中学展示の部

第1位 2年2組 米は田から(宝)  
ライスはナイス  
第2位 1年1組 その時世界が動いた  
お茶編  
第3位 1年5組 Japanese Castle  
城の謎を暴け

#### ▼中学演技の部

第1位 3年4組 It's our school  
第2位 3年1組 僕が僕であるために  
第3位 3年5組 クローバー  
本当の幸せ

#### ▼高校展示の部

第1位 1年6組 Under the sea☆もり  
りんの水族館  
第2位 1年1組 キラキラ輝くガラス  
の十代  
第3位 1年3組  
Brasil um pais maraviloso  
リリーとゆかいな仲間達

#### ▼高校演技の部

第1位 2年7組 時をかける翁  
第2位 2年1組 先生たちの裏事情  
第3位 2年6組 今日は何の日?

#### ▼KOPの部

第1位 迷える子羊ちゃん

#### ▼《高校生徒会》

**体育会** 雨天順延のため、9月28日(月)に開催された。グラウンド準備のために1時間遅れで開始となったが、すべてのプログラムを実施することができた。様々な競技で熱戦が繰り広げられ、橙プロック(3年2・4・6組)が優勝、緑プロック(1年4・5・6組)が第2位と、3年生が最後の体育会で有終の美を飾った。  
**秋季球技大会** 10月22日(木)、爽やかな秋晴れの空の下、1年生・2年生で実施した。ソフトボール、テーパーボール、フットサル、ドッジボールの4種目が行われ、1年生は2組が、2年生は2組・5組が優勝した。

#### ▼《中学生徒会》

8月1日に浅口支部生徒会交流会が鴨方中学校で開かれた。今年度は、各校の自校紹介をし、各校の生徒会活動についてグループで話し合った。その後、体育館に移動し、バドミントンで汗を流し、親睦を深めた。ほつま祭では、演劇部門には3年全5クラス、2年1クラス、1年生1クラス、展示部門には2年4クラ

スト1年4クラスが参加した。展示は、夏休み中に様々なところに取材に行くなど内容の濃い展示となった。演劇では各クラスの熱演が見られた。

体育会は10月3日に開催された。ほつま祭以後、3週間程度の取り組みの中、3年を中心に兄弟学級が団結した素晴らしい応援合戦を展開した。全体でのマッスゲームは今回無しであったが、中3による演技は笑顔があふれ、見ていて清々しいものとなった。学年の部第1位は1年2組、2年2組、3年4組、兄弟学級の部第1位は2組、応援の部第1位は5組であった。

8年目となった『リレクレーン作戦』も1学期よりおこなっている。「日頃お世話になっている町内やJR金光駅等に対し、お礼(感謝)の気持ちを清掃という形で表す」「登竿校のマナーについて考える機会とし、学園の仲間が毎日清掃することによってゴミをしない、迷惑をかける」という意識を各々に育てる」が目的で、クラス、部、生徒会事務局が各単位でチームを作り、試験中を除き一日おきに連続して金光駅から学園までの主に通学路を中心に清掃活動している。町内の

方にも温かい言葉をかけていただき、どのチームも一生懸命取り組んでいる。

各委員会の動きとしては、評議員会は1学期に取り組んだ「愛の募金」に続いて、今年も赤十字を通して9月に東北、北関東でおきた大雨による河川氾濫(鬼怒川など)の被害への募金活動に取り組む予定である。

#### 《中・高新聞部》

新入部員が入り、中学11名、高校7名の合計18名で活動している。9月にほつま新聞198号、10月に中高体育会特別号を発行した。現在、ほつま新聞199号作成に向けて取り組んでいる。

#### 《天文気象部》

8月、さつきっ子科学教室では、来年の3月9日に見られる部分日食に先立ち、日食についての学習や日食メガネの作成を行った。また、夏合宿を弥高山で実施し、ベルセウス座流星群の観測や写真撮影を行った。

9月、ほつま祭では、例年のように、展示・プラネタリウム・天文台公開を実施した。また、9月の夜間観測ではOBからも指導を受けながら、オリオン大星雲などの天体写真を撮ることができた。

11月、倉敷科学センターで行われた科学の祭典に参加し、光のスペクトルについてブースを出し、来場者に簡易分光器の作成や様々な光のスペクトルの観察を体験させることができた。

#### 《電気科学部》

8月30日、浅口郡里庄町の里庄中学校の体育館で第23回ロボットコンテストに中学4台、高校3台が出場した。夏休み前からロボットの作製を行いはじめ、夏休み後半には操作の練習をして大会にのぞんだが、全台予選敗退となった。

中学生は11月22日に行われる創造アイデアロボットコンテストへの出場のためのロボットの製作をがんばっている。

#### 《美術部》

ほつま祭では、春から制作していた小品を展示し多くの方に見ていただいた。また、岡山県中学生美術展のための作品を制作している。

#### 《高校美術部》

高2の水畑絢賀さんが岡山県芸術フェスティバルに作品を出品。また部員はほつま祭でこの1年の作品を出品した。現在、来年1月の岡山県高校美術展に向けて制作に頑張っている。

#### 《中・高書道部》

中学8名、高校9名で活動している。ほつま祭では書道展を開催し、古典臨書と創作を発表した。体育会では部活動リレーに参加した。

#### 《茶道部》

9月6日(日)にやつなみホールで行われた金光図書館と大谷地区元気いっばいまちづくり協議会主催の行事で抹茶のお接待をさせていただいた。また、ほつま祭では、大坂夏の陣から400年というこゝとで、「武家の茶々四百年前との出会い」をテーマに茶会を行った。天候にも恵まれ、多くの方々に来ていただいた。

#### 《音楽部吹奏楽団》

7月12日(日)、浅口音楽フェスティバルで「ZARDコレクション」「踊るボンボリン」「夏色」を演奏した。7月13日(月)、16日(木)、19日(日)、21日(火)は高校野球部の応援に参加した。8月23日(日)は部内アンサンブルコンサートを行い、フルート3重奏が今年もグランプリを獲得した。8月29日(土)は金光学園幼稚園と同心幼稚園の夏祭りに参加した。9月13日(日)はほつま祭で演奏し、14日(月)は金光小学校と金光

吉備小学校へ演奏訪問をした。10月25日(日)は福山駅前のアイネス福山にてチャリティーライブに出演し、「ふるさと」「ほよん行進曲」「愛は勝つ」等を演奏した。

#### 《音楽部コーラス》

7月12日(日)に里庄総合文化ホールフロイデで開催された第25回浅口音楽フェスティバルに参加した。午前中はオーブニングとフィナーレの合同練習をし、午後から本番であった。サマーコンサート前に緊張感のあるステージを持ってよかった。

【曲目】波乗りジョニー、鉄腕アトム、マンマミーア、あなた

7月20日(月)に校内で金光町の少年少女合唱団「ひまわり」と交流会をおこなった。小学生と一緒に歌を歌ったり、踊りを踊ったりして楽しい時間を過ごせた。

7月28日(火)～30日(木)で夏合宿を行った。本番直前の合宿となり、集中力の高い練習や遅くまで大道具を作成したり、密度の濃いものとなった。

8月2日(日)に倉敷市玉島文化センターでサマーコンサートを開催した。初めてのホールで心配なことも多かったが、

保護者をはじめ多くの方の協力のもと無事開催することができた。お客様も90人ほど来てくださり、一杯の会場で部員たちは練習の成果を十分に発揮することができた。第1ステージは「Heart」をテーマにオーブニングは「うれしい楽しい大好き」。モデルで男声、女声、中学、高校の順に「上を向いて歩こう」「木綿のハンカチーフ」「波乗りジョニー」「鉄腕アトム」を歌い、最後に「ころようたえ」を高らかに歌い上げた。第2ステージは前半、福島で行われたアンサンブルコンテスト全国大会出場への報告演奏を行った。

続いて現役・OB・OG合同ステージで組曲「明日へ続く道」を力強く歌うことができた。第3ステージは「あなた」をテーマに家族について考える合唱劇を披露した。「バイレツツオブカリビアン」をはじめ、「アンダーザシー」「男はつらいよ」「オリジナルスマイル」「あなた」などを歌い、会場と一緒に楽しむことができた。

8月29日(土)にW格蘭ラセーレ(福山)で開催された第4回同窓会福山交流会によんでいただき、歌やダンスを披露した。途中、学園歌を二声でハモる練習を一緒にしたりして楽しく交流させて

いただいた。

9月13日(日)のほつま祭2日目にコーラスの発表がほつま体育館であった。サマーコンサートの曲に加え、「360」「オーバードライブ」「恋唄」などをメドレーに楽しいステージにすることができた。

#### 《写真部》

ほつま祭では「My summer」をテーマに、海、花火、夏の風景を走る列車など、それぞれの夏の一面を収めた写真を展示し、好評であった。

#### 《高放送部》

7月に開催されたオープンスクールで高2岡本夏実が司会の大役を果たした。8月に中・高合同で強化練習を行い、文化祭の音響や発声練習を中心に活動を行い、中学生との親睦を深めた。9月12(土)・13(日)のほつま祭では音響係として活躍した。また、体育会でも放送係としてアナウンスを中心に選手紹介を行った。昨年に引き続き私学協会からの依頼で「RSKラジオ」による私学のPRイベントに高2今井紗香が参加し、20秒で学園紹介を行った。11月3日、第3回合同練習会が朝日高校で開催され、高1横山美希、植田七菜子が参加した。第39回岡山県高

等学校総合文化祭兼第39回岡山県高等学校秋季放送コンテストが11月22日(日)に県立玉島高校で開催され、アナウンス・朗読部門に高1と高2の生徒がエントリーした。残念ながら入賞には至らなかった。

#### 《囲碁将棋部》

10月3日(土)水島工業高等学校で開催された第35回岡山県高等学校秋季将棋大会において、高2土屋昌希君、高1原田理司君がそれぞれAグループに出場し、ともに3勝2敗、健闘むなしく、惜しくも中国大会を逃した。また、Bグループに高1山田讓君が出場した。

#### 《科学部》

10月2日～4日に大阪大学にて実験・実習を行い、さらには留学生と英語で環境問題についてディスカッションするなどの強化合宿を行った。10月24日に総社市スポーツセンターきびアリーナにて行われた「サイエンスチャレンジ岡山2015」に高校2年生が参加し、健闘した。

#### 《文芸部》

7月28日(火)から2泊3日で校内合宿を行った。親睦を深めつつ、作品執筆

に没頭し2冊の習作集を制作、批評会を行うことで技術の向上に努めた。ほつま祭では文芸誌「櫛火」を販売し、無事に完売した。9月27日(日)に高文連文芸部会主催の「高校生文芸道場おかやま」

散文部門に4名が参加、他校の生徒と交流を深めた。また同会に先立たって実施されたコンクールの散文部門に2名が作品を応募、高2山口璃菜の作品「海を染める」が優秀賞を受賞した。同作品は「中国高校生文芸道場」のコンクールにおいても佳作となった。校内では月ごとにテーマを設けて作品を執筆。月例集にまとめ、批評会を行うことで互いに研鑽している。

#### 《中陸上競技部》

中国大会

中国中学校陸上競技選手権大会において眞田明日香が砲丸投で準優勝。

岡山大会

岡山県中学校総合体育大会において眞田明日香が女子砲丸投3位。谷本きなりが女子100mで4位。仁平優宙が男子走幅跳で6位。塚本航平が男子400mで7位。

岡山県中学校記録会において眞田明日香が女子砲丸投で2位。仁平優宙が男子走幅跳で3位。塚本航平が男子400mで4位。

谷本きなりが女子100mで5位・女子走幅跳で5位。谷野光琉が男子三段跳で5位。

六原侑哉が男子走幅跳で7位。

岡山県ジュニア陸上競技選手権において谷本きなりが女子走幅跳で2位・100mで5位。仁平優宙が男子走幅跳で4位。塚本航平が200mで8位。

岡山県中学校秋季大会(新人戦)

仁平優宙が男子走幅跳で準優勝。谷本きなり走幅跳で7位・100mで8位。

#### 《高陸上競技部》

全国大会

全国高校陸上(和歌山インターハイ)

清水沙紀が全国高等学校総合体育大会女子5000m競歩に出場した。

中国大会

中国高等学校新人陸上

眞田剛寛が男子400mで3位。

中国5県陸上競技対抗選手権大会

田頭操真が男子3000m障害で8位。

田邊詩歩 宮口真帆 藤井美帆 三宅悠希が女子4×400mリレーに出場した。

県大会

岡山県高等学校陸上競技選手権大会で眞田剛寛が4位。多田ミユが女子ハンマー投で4位。藤井美帆が女子400mで6位。

三宅悠希が400mハードルで7位。

岡山県新人陸上競技大会において眞田剛寛が優勝・200mが5位。三宅悠希が女子400mハードルで4位・女子400mで6位。

宮口真帆・田邊詩歩・三宅悠希・藤井美帆が4×100mリレーで4位。大月貴弘が男子やり投げで7位。多田ミユが女子円盤投で8位。

岡山県陸上競技カーニバルにおいて田頭操真が男子3000m障害で3位。大月貴弘が男子円盤投で7位。若狭悠佑が8位。三宅悠希が女子400mハードルで5位。

眞田明日香が女子砲丸投一般の部で3位。

#### 《ラグビー部》

7月26日(日)に高体連夏季強化練習会に参加。新チームとして初めての試合を経験した。8月17日(月)～19日(水)には校内合宿を実施。多くの卒業生や外部コーチの参加を得て、充実した合宿となった。9月20日(日)には岡山県高等学校ラグビー選手権大会に岡山朝日、岡山一宮との合同チームで参加。1回戦で関西に0-69で敗れた。10月25日(日)には全国高等学校ラグビーフットボール大会岡山県予選会に同様の合同チームで参加。津山高専、林野、鴨方の合同チー

ムに26-29で惜敗した。

#### 《中男子ソフトテニス部》

8月1日(土)と8月8日(土)に第19回チャレンジカップ備南西地区中学生ソフトテニス大会へ参加した。

1日に行われた2、3年生の部では、金川・板阪組がベスト8に入った。また、8日(土)に行われた1年生の部においては、岡田・田中組がベスト8に入った。

また、9月19日に行われた岡山県中学校体育連盟備西支部ソフトテニス研修会では、吉田・小田原ペアがベスト16に入ったが、団体戦でのシード権は獲得できなかった。

10月17・18日に行われた平成27年度備南西地区秋季ソフトテニス大会に参加した。個人戦では、吉田・小田原ペアがベスト16に入ったが、県大会がけトーナメント1回戦で敗退し県大会出場者はなしという結果に終わった。団体戦は、吉田・小田原、中塚・田中、五藤・倉田、の3ペアで臨み、小北中学校に3-0で勝つも、続く新吉中学校に0-3で敗れ予選リーグ敗退という結果に終わった。秋季県総体への出場者0という結果に終わったが、来年度にむけて努力を続けている。

### 《中女子ソフトテニス部》

7月4日(土)・5日(日)に井原運動公園テニスコートで行われた備南西地区夏季ソフトテニス大会で、個人戦には6ペアが出場し、塚岡・向ペアがベスト8で県大会出場権を獲得、その他のペアは3回戦までに敗退。団体戦では予選リーグで笠岡東中学校に勝利したものの、笠岡西中学校に敗れ、決勝トーナメントには進めなかった。7月22日(水)に岡山市浦安総合公園テニスコートで行われた県大会では、塚岡・向ペアは1回戦で総社東中学校のペアに勝利したものの、2回戦で就実中学校のペアに敗退。

8月1日(土)・8日(土)に井原運動公園テニスコートで行われた第19回チャレンジカップ備南西地区中学生ソフトテニス大会に11ペア参加し、塚岡・向ペアがI部で優勝、黒川・仁科がベスト8。同じくII部で浅原・八重本ペアがベスト4、野邊・片岡ペアがベスト8に入った。10月17日(土)・18日(日)に井原運動公園テニスコートで行われた備南西地区秋季ソフトテニス大会で、個人戦には6ペアが出場し、佐々木・安部ペア・津田・藤井ペアがベスト16となったが、県大会

出場権を逃した。その他のペアは3回戦までに敗退。団体戦では予選リーグで井原中学校・矢掛中学校に勝って準決勝に進出し、準決勝で金浦中学校に勝って、決勝では金光中学校に敗れたものの、昨年に続いて県大会出場権を獲得。11月2日(月)に水島緑地福田公園テニスコートで行われた県大会では、1回戦で就実中学校に完敗した。

### 《高男子ソフトテニス部》

6月27日(土)に国民体育大会の岡山県予選が浦安総合公園でおこなわれ、竹内・卜部組と三宅・渡辺組が出場したが、いずれも初戦で敗退した。

夏季休暇中には8月7日(金)8日(土)に備前テニスセンターで開催された岡山県ソフトテニス交流大会に参加して県内の高校と団体戦をおこない、3年生が引退したあとの新チームの強化を図った。8月19日(水)から23日(日)にかけて、水島緑地福田公園テニスコートで高梁川流域高等学校ソフトテニス大会がおこなわれた。個人戦では黒川・石原組が5回戦まで進出しベスト16の好成績を残した。団体戦はAチームが1回戦で総社Bに3対0で勝利、2回戦で高梁Bに2対1で

勝利したが、3回戦で第1シードの倉敷工業Aに0対3で敗れた。Bチームは1回戦で倉敷鷺羽Bに2対1で勝利したものの、2回戦で岡山龍谷に1対2で敗れた。

9月26日(土)は岡山県新人ソフトテニス選手権大会(ダブルス)の備西地区予選会が玉島の森テニスコートでおこなわれた。10月4日(日)には順位決定戦までおこない、最終的に黒川・竹内組が優勝、佐藤・竹内組が第14位に入賞し、この2ペアが県大会への出場権を獲得した。なお、この大会での本校の優勝は20年ぶりの快挙である。そして10月31日(土)11月1日(日)に浦安総合公園でおこなわれた県大会(ダブルス)では、黒川・石原組が4回戦で第4シードの岡山理大附属のペアに惜敗したものの、敗者復活戦で勝利してベスト24に残り、岡山県高等学校選抜インドア選手権大会への出場権を獲得した。いっぽう県大会(団体戦)は7日(土)8日(日)に備前テニスセンターでおこなわれた。1回戦で美作高校に2対1で勝利し、2回戦は玉島高校に2対1で勝利したが、3回戦で第4シードの倉敷工業高校に0対3で敗れ、県ベ

スト16の成績で大会を終えた。

### 《高女子ソフトテニス部》

5月、全日本・中国高等学校ソフトテニス選手権大会(個人)備西地区予選会に、高2の西山・佐々木組、塚本・赤澤組の2ペアが出場、西山・佐々木組が準優勝し、6月に岡山県予選会に出場した。8月、第56回高梁川流域高等学校ソフトテニス大会(個人)に、西山・佐々木組、塚本・赤澤組、高1の畠山優・畠山佳組が出場、西山・佐々木組がベスト16になった。第45回高梁川流域高等学校対抗ソフトテニス大会(団体)に出場した。

9月、岡山県高等学校新人ソフトテニス大会(ダブルス)備西地区予選会では、西山・佐々木組が優勝、塚本・畠山佳組がベスト8、畠山優・赤澤組がベスト16で、3ペア共に県大会への出場権を得た。

10月、岡山県高等学校新人ソフトテニス大会(ダブルス)に3ペアが出場、西山・佐々木組がベスト32となり、県選抜インドア選手権大会出場をかけての敗者復活戦に臨んだが、惜しくも敗れて出場は叶わなかった。

11月、岡山県高等学校新人ソフトテニス大会(団体)では、2回戦敗退であった。

### 《中卓球部》

7月4、5日に備南西地区総体に出場した。男子団体では決勝で芳井に勝ち、優勝した。女子団体では決勝で大島に勝ち、優勝した。男子個人では升本(中3)が準優勝、原田(中2)がベスト4、安東(中3)がベスト8に入り、県大会出場を決めた。女子個人では森藤(中3)が優勝、徳毛(中3)がベスト4に入り、県大会出場を決めた。

7月23、24日に岡山県総体に出場した。男子団体では1回戦で玉に3―2で勝ち、2回戦で玉島東に1―3で敗れてベスト16であった。女子団体では1回戦で京山に3―2で勝ち、2回戦で富山に3―2で勝ち、決勝1次リーグで御南に3―2で勝ち、連島南に3―0で勝ち、就実に0―3で敗れ、決勝2次リーグで操南に1―3で敗れ、西大寺に1―3で敗れたが、5位に入った。男子個人では、升本がベスト32、安東と原田が1回戦敗退に入った。女子個人では徳毛と森藤が1回戦敗退であった。

8月30日にワコー杯に参加した。男子団体は決勝で金光に勝ち、優勝した。女子団体では決勝で鴨方に勝ち、優勝した。

男子個人では升本が優勝、安藤が準優勝、古賀と原田がベスト4、信岡(中3)と山形(中2)がベスト8であった。女子個人では森藤が優勝、谷口(中3)がベスト4、徳毛と藤(中3)がベスト8であった。

9月19、20日に備西支部秋季大会に出場した。男子団体では4勝1敗で準優勝であった。男子個人では瀬良(中2)がベスト8、山形がベスト16であった。女子個人では東(中2)がベスト4であった。10月17、18日に備南西地区秋季大会に出場した。男子団体では決勝で金光に敗れたが準優勝で県大会出場を決めた。男子個人では原田がベスト8、山形がベスト16で県大会出場を決めた。女子個人では東が3位に入賞し、県大会出場を決めた。11月1、2日に岡山県秋季大会に出場した。男子団体では予選リーグで総社西に0―3、美作に3―0、灘崎に3―0で2勝1敗であった。男子個人では原田と山形が1回戦敗退であった。女子個人では東が1回戦敗退であった。

11月8日に井原会長杯に参加した。男子団体ではAチームが予選1位で決勝トーナメント1回戦敗退、Bチームが予

選2位で2位トーナメントでベスト4に入った。女子団体では予選1位で決勝トーナメント1回戦で敗退した。

### 《高卓球部》

6月19～21日に中国高校卓球選手権大会に出場した。男子団体では1回戦で鳥取敬愛(鳥取)に0―3で敗れた。男子ダブルスでは掛谷(高3)・福田(高2)組が2回戦進出、中嶋(高3)・原田(高3)組は1回戦敗退であった。女子団体では1回戦で松徳学院(島根)に0―3で敗れた。女子シングルスでは西岡(高2)と東(高1)が出場したが1回戦敗退であった。

7月18日に国体予選(少年の部)に出場した。男子シングルスでは福田がベスト16に入った。女子シングルスでは西岡と内山(高1)と東と藤澤(高1)がベスト32に入った。

8月7日に倉敷市長杯に出場した。男子団体では決勝で倉敷工業Aに敗れたが、準優勝であった。女子団体では金光学園Aが3年連続の優勝、金光学園Bが準優勝であった。男子シングルスでは福田が準優勝、木下(高2)がベスト8であった。女子シングルスでは内山が優勝、西岡が

準優勝、藤澤と東がベスト4、中務(高1)がベスト8であった。

8月18日に岡山県高校夏季大会に出場した。2年生男子シングルスでは福田がベスト8、奥村(高2)と木下がベスト32に入った。1年生男子シングルスでは唐川(高1)がベスト32に入った。2年生女子シングルスでは西岡がベスト8、難波もなみ(高2)がベスト16に入った。1年生女子シングルスでは内山がベスト8、藤澤がベスト16、中務と西原(高1)と東がベスト32に入った。

9月22日に全日本予選(ジュニアの部)に出場した。男子シングルスで福田がベスト32に入った。

10月25日と11月3日に岡山県高校秋季大会に出場した。男子団体では予選リーグで笠岡に3―0、岡山学芸館に3―0、高梁に3―0で勝ち、続く決勝トーナメント2回戦で倉敷鷺羽に3―0で勝ち、3回戦で総社に3―0で勝ち、準々決勝で玉野光南に2―3で敗れ、順位決定リーグで水島工業に3―0、津山高専に1―3、岡山工業に3―2で結果6位となった。女子団体では予選リーグで瀬戸に3―

れた備南西地区秋季大会では、2回戦高屋中学校に5―3で勝利し、代表決定戦では笠岡東中学校に6―0で勝利し、4年連続の県大会出場を決めた。11月1日、2日にどんぐり球場などで行われた岡山県秋季大会では、1回戦勝山中学校に7―0、2回戦高梁中学校に1―0で勝利したが、準決勝戦で磐梨中学校に0―7で敗れ、3年連続の3位となった。

### 《高野球部》

7月11日より開幕した全国高等学校野球選手権岡山大会では、1回戦は西大寺高校に10対6で勝利し、2回戦は備前緑陽高校に8対1(7回コールド)で勝利、3回戦は関西高校に4対2で勝利したが、準々決勝で創志学園に惜しくも1対2で敗れた。3年生最後の大会はベスト8での敗退となった。

新チームになり、8月末から秋季岡山県高等学校野球大会西部地区予選が始まり、倉敷鷺羽高校、笠岡商業、倉敷工業にそれぞれ勝利し、県大会出場を決めた。続く県大会では、1回戦は、岡山学芸館高校に5対2で勝利し、準々決勝は、倉敷古城池高校に3対0で勝利、準決勝は興譲館高校に1対0で勝利、決勝戦は倉

敷工業に6対0で勝利し、念願の県大会初優勝を成し遂げ、さらに中国大会初出場も勝ち取った。

初出場となった中国大会は10月23日に開幕し、1回戦は鳥取代表の境高校に4対0で勝利したが、続く準々決勝で、岡山代表の創志学園に1対6で敗れた。鳥根県まで多くの皆様に足を運んでいただき、部員・顧問一同大変感謝しており、この場を借りてお礼を申し上げます。中国大会に出場したどの学校よりも金光学園のスタンドが、多くの応援の方々に埋め尽くされていたことが印象的である。

### 《中サッカー部》

7月7日に寄島三ツ山運動公園で行われた地区大会の結果は次のとおりである。対里庄(0―0)PK6―7。

7月25日・26日に寄島三ツ山運動公園で行われたAKANO杯の結果は次のとおりである。対里庄(0―0)、対船穂(1―0)、対寄島(1―1)PK4―5、対玉島東(1―0)。結果は3位。

この大会で3年生は引退をした。9月19日・20日に寄島三ツ山運動公園で行われた支部大会の結果は次のとおり。対笠岡東(4―0)、対寄島(2―1)、

0、倉敷古城池に3―1、岡山操山に3―1で勝ち、続く決勝トーナメント2回戦で笠岡に3―0で勝ち、3回戦で津山に3―0で勝ち、準々決勝で美作に3―0で勝ち、準決勝で就実に0―3で敗れたがベスト4に入った。

### 《中野球部》

7月5日、6日に井原球場などで行われた備南西地区夏季総体は、2回戦鴨方中学校に2―0で勝利し、代表決定戦では里庄中学校に5―1で勝利し、3年連続8度目の県大会出場を決めた。7月26日、27日に中山球場と倉敷市営球場で行われた県総体は、1回戦川上中学校に2―1で勝利したが、2回戦総社中学校に1―3で敗れ、2年連続ベスト16となった。7月31日、8月1日に総社球場で行われた総社市長杯では、1回戦倉敷中学校に4―2で勝利したが、準決勝で総社西中学校に1―7で敗れ3位となった。新チームとなって、9月19日、20日に井原球場などで行われたシード決めでは、1回戦井原中学校9―0、2回戦笠岡西中学校に10―7、決定戦は金光中学校に3―0で勝利し、シードを獲得した。10月17日、18日に笠岡市営球場などで行わ

対鴨方(0―3)、対高屋(0―0)。結果は3位。

10月17日に笠岡陸上競技場で行われた地区大会の結果は次のとおり。対金浦(2―0)、対鴨方(2―5)。2回戦敗退。

練習試合の結果は次のとおり。7月18日対玉島北(1―3)、8月2日対福浜(2―2)、対福浜(1―3)、9月27日対高屋(1―2)、対矢掛(1―1)、対玉島西(3―1)、10月11日対倉敷東(3―0)、対玉島北(2―0)。

### 《高サッカー部》

高円宮杯U-18サッカーリーグ2015OKAYAMAチャレンジリーグでは、上位のリーグには進めなかったものの、課題を少しずつクリアしながらチーム力を向上させ、後期リーグでは3位に終わった。7月19日、対林野(0―3)。7月20日、対玉島(1―0)。10月4日、対高梁城南(5―1)。10月10日、対白陵(3―1)。11月3日、対大安寺(0―2)。11月15日、対勝山(0―4)。11月23日、対矢掛(5―0)。

夏休みには、練習試合を行い、IPUフェスティバルにも参加した。個人の体力・スキルと組織力をアップさせた。7

月12日、対アクト(2-5)・(2-7)・(7-4)。7月30日、対神辺旭B(0-0)、対笠工A・B(1-1)・(0-0)、対おかやま山陽B(0-1)、対神辺旭A(0-0)。8月3日、対高梁(7-0)、対井原(4-0)、対高梁城南(2-1)。8月6日、対理天附属(4-2)・(3-2)。8月8日、対高松農業(6-2)。8月9日、対IPU(1-3)、対岡山大学(0-8)、対尽誠(0-5)。8月10日、対社(1-3)、対摂津(0-8)、対IPU(0-11)。8月11日、対今治東(0-7)、対瀬戸(0-0)。8月19日、対笠岡工業(5-1)・(2-1)。対玉島商業(0-1)・(2-0)。

U-16岡山県サッカーリーグ2015に参加し、1年生中心のメンバーで、強豪相手に果敢に挑んだ。8月22日、対水島工業(0-1)、対林野(1-2)。8月23日、対総社(0-1)、対岡山工業(2-0)。選手権大会一次トーナメントでは、1回戦は勝利したが2回戦で敗れた。9月13日、対商大附属(3-0)。9月19日、対一宮(0-4)。

12月下旬から始まる人戦に向けて、まずは県大会出場を目標として日々練習を

している。

### 《中柔道部》

7月4日里庄武道館にて備南西地区総体が行われた。男子団体戦は1位、女子団体戦は2位であった。個人戦では男子50kg級で中1大谷武市が3位、60kg級で中3虫明春哉が1位・81kg級で中2森永慶之が1位・中3橋高光哉が2位、女子個人戦では中2宮口史穂が1位、宮口史穂が2位であった。

7月23日24日に岡山武道館にて岡山県中学校総合体育大会が行われた。男子団体戦では1回戦岡輝中に勝利したが2回戦で倉敷北中に敗れた。女子団体戦では1回戦で勝央中に敗れた。個人戦では大谷武市が50kg級2回戦敗退・中3十倉拓哉が55kg級1回戦敗退・中3虫明春哉が60kg級3位・中2森永慶之が81kg級3位・中3橋高光哉が81kg級1回戦敗退・宮口史穂がベスト8・宮口史穂は1回戦敗退であった。

9月19日金光学園柔道場にて備西支部大会がおこなわれた。男子団体・女子団体とも2位であった。

9月20日玉野スポーツセンターにて岡山県中学校強化練習会が行われ、新チー

ムでの練習試合を行った。

10月17日里庄武道館にて備南西地区秋季大会が行われた。男子団体は1位、女子団体は2位であった。個人戦では男子50kg級で中2原田将樹が3位、中1大谷武市が3位、81kg級で中2森永慶之が1位、女子個人戦では中2宮口史穂が1位・中1米田早希が2位、違う階級にて宮口史穂が1位であった。

11月1日2日岡山武道館にて岡山県中学校秋季柔道大会が行われた。男子団体戦では1回戦で児島中に敗退した。女子団体戦では1回戦市立操山中に勝利したが、2回戦鶴山中に敗退した。ベスト8であった。個人戦では中1大谷武市が50kg級2回戦敗退、中2森永慶之が81kg級で1位、中2宮口史穂が3位、中2宮口史穂がベスト8であった。

### 《高柔道部》

8月23日玉野スポーツセンターにて錬成大会が行われた。県内外の高校と練習試合を多く行うことができた。

9月21日22日と愛媛武道館にて愛媛国体強化錬成大会が行われ、多くの練習試合を行った。

10月31日11月1日玉野スポーツセン

ターにて岡山県高等学校新人柔道大会が行われた。男子個人戦では、高1戸田勝己が60kg級4回戦で敗退しベスト8であった。女子個人戦では高2江草ひな子が2位となった。

### 《中・高柔道部》

7月29日から8月1日まで3泊4日で恒例の校内合宿を行った。多くの近隣の中学校高校の柔道部やOBの先輩に来ていただき、貴重な練習ができた。合わせて保護者会も行った。

### 《中剣道部》

《段級審査会》6月7日(日)佐伯優真(中2)、新谷理駆(中1)が初段合格。

《備南西地区大会》7月4日(土)笠岡総合体育館サブアリーナで開催され、男子個人試合で小寺大起(中1)、岡本紘太郎(中2)が1回戦敗退。市川真広(中2)、池田弦輝(中3)、日名啓介(中3)が2回戦敗退。新谷、佐伯が準決勝戦で敗れ、共に第3位。男子団体試合は1回戦里庄中学に勝ち、2回戦笠岡東中学に負け、第3位であった。新谷、佐伯が県大会出場権を得る。

《岡山県段別大会》7月20日(月)岡山武道館で開催され、初段の部で新谷、池田、

日名が2回戦、佐伯が4回戦敗退であった。

《県総体》7月22日(水)宮本武蔵頭彰武蔵武道館で開催され、新谷が2回戦、佐伯が3回戦敗退であった。

《段級審査会》8月2日(日)市川が初段合格。池田、日名が2段に合格。

《岡山県勝抜大会》8月9日(日)岡山武道館で開催され、2回戦岡北中学に敗れる。

《浅口市剣道大会》第10回記念大会が8月23日(日)天草公園体育館で開催され、団体試合で1回戦鴨方中学に勝ち、2回戦で笠岡中央スポーツ少年団に敗れる。個人試合は岡本、日名が1回戦敗退。小寺が2回戦、新谷、池田が3回戦敗退。佐伯が4回戦敗退で、ベスト8。市川が準決勝戦敗退で、第3位となる。

《備南西地区大会》10月17日(土)笠岡総合体育館サブアリーナで開催され、男子団体試合は1回戦シード。2回戦は井原中学に3対1で勝利。決勝戦笠岡東中学に4対0で勝ち、優勝。個人試合は小寺、岡本が2回戦敗退。新谷、市川が共に準決勝戦敗退で第3位。佐伯が決勝戦に勝ち、初優勝を飾る。団体と個人の佐伯、

市川、新谷の3名が県大会の出場権を得る。

《岡山県中学校秋季大会》11月1日(日)2日(月)御津スポーツパークで開催され、団体試合は1回戦シード、2回戦津山東中学に敗れる。個人試合は市川が2回戦、新谷が3回戦敗退。佐伯が4回戦敗退でベスト16であった。

### 《高剣道部》

《岡山県新人大会》11月7日(土)8日(日)津山東体育館で開催され、平川龍之介(高1)が1回戦敗退であった。

《中男子バスケットボール部》7月5日、6日に里庄中学校で行われた備南西地区夏季総体では、里庄中学校と対戦し、40-31で敗れ、県大会出場は果たせなかった。

新チームになり行われた9月19日に笠岡市民体育センターの支部大会では、3位でシードを得ることができなかった。10月17日、18日に行われた備南西地区秋季大会では、鴨方中と対戦し、79-68で勝利し、決勝戦では里庄中と対戦し、43-41で勝利し、11月に行われる県大会への出場を決めた。

11月1日に日生総合運動公園体育館な

どで行われた岡山県秋季大会では、1回戦で玉島北中と対戦し、33―94で敗退したが、優勝チームを相手に、最後まで戦う姿勢を捨てずに戦うことができた。

#### 《中女子バスケットボール部》

6月6日に行われた支部大会では、1回戦寄島中勝利し、準決勝矢掛でも勝利し、決勝鴨方戦で勝利し優勝。夏季総体のシールドを獲得することができた。

7月5日、6日に里庄中学校で行われた備南西地区夏季総体では、準決勝、金光学園75―52笠岡東中で勝利し、決勝、金光学園37―54鴨方中で敗退し、県大会出場を果たすことができなかった。

新チームになり行われた9月19日に笠岡市民体育センターの支部大会では、1回戦金光学園31―8寄島中学校に勝利、準決勝、金光学園50―10里庄中学校で勝利、決勝では金光学園26―19笠岡東中で勝利し、優勝。新人戦のシールドを獲得することができた。

10月17日、18日に行われた備南西地区秋季大会では、準決勝、金光学園71―24里庄中で勝利し、決勝戦では金光学園65―26笠岡東中に勝利し優勝。県大会出場を決めた。

11月1日に日生総合運動公園体育館などで行われた岡山県秋季大会では、1回戦竜操中と対戦。金光学園17―76竜操中で敗退した。

#### 《高女子バスケットボール部》

9月19日・20日、選抜優勝大会（ウインターカップ）備南西地区予選会に参加した。1回戦、倉敷鷺羽に54―50で勝ち、2回戦、おかやま山陽に79―71で勝った。ブロック決勝で清心に83―79で勝ち、5年ぶりの県大会出場を決めた。

10月24日に選抜優勝大会（ウインターカップ）岡山県予選会に参加し、1回戦、総社に73―47で負けた。

#### 《中男子バレーボール部》

平成27年度の戦績  
6月に行われた支部大会、地区大会と順調に勝ち進み、7月に行われた県大会では優勝しました。

この優勝は2年連続10回目。  
8月に鳥取県で行われた中国大会では準決勝で敗れたが、3位決定戦で勝利し、北海道旭川市で行われた全国大会へ出場。15年ぶり2回目。

予選突破し決勝トーナメントに進出したが敗れた。

チームが一新し、新チームとして9月の支部大会では優勝。10月の地区大会でも優勝。県大会でも優勝。

この優勝は2年連続4回目。

そして、2月に山口県で行われる中国新人大会の出場権を獲得。

#### 《中女子バレーボール部》

9月19・20日に行われた秋季支部大会では金光中との合同チームとして臨み、笠岡東中に勝利し、支部ベスト8となった。また、10月17・18日に行われた秋季地区大会では決勝トーナメントで笠岡東中に勝利し、地区ベスト8となった。

#### 《高男子バレーボール》

9月26日から行われた和歌山国体に岡山県選抜として新山駿、福池凌太が出場した。1回戦、埼玉選抜に勝利。2回戦、福岡選抜に負けベスト16になりました。11月に行われた岡山県選抜優勝大会では笠岡商業、岡山龍谷、準決勝玉野光南高校にストレートで勝利。決勝戦岡山商業に1―3で敗退。準優勝という結果に終わった。

#### 《高女子バレーボール部》

10月31日に行われた春高地区予選に出場した。1回戦敗退であったが、久しぶ

りの参加で選手らは出場できたことに満了した様子であった。

#### 《少林寺拳法部》

11月3日、玉島武道館において第26回岡山県高等学校少林寺拳法新人大会が開催され、本校からは高校1年生の4人が出場した。男子自由単独演武の部では友田直陽が優勝、山中信助、佐藤秀紀は惜しくも予選で敗退した。男子規定単独演武の部では河村征が第3位となった。男子自由単独演武の部は昨年の中野に続き2連覇。友田は来年3月に香川県で開催される第19回全国高等学校少林寺拳法選抜大会の出場権を得た。

#### 《バドミントン同好会》

2学期に入って新入部員がさらに加わり、毎週火曜日に和気講々と活動している。

#### 《数学同好会》

9月のほつま祭において、「数学が数楽に!! Season 2」というタイトルで部展示をさせていただきました。

#### 《木綿崎ボランテニア部》

8月宮城県南三陸町において「わらすこ探検隊キャンプ」ボランテニアスタップとして参加した。復興の祈りを込めて

金光教石巻教会に参拝し千羽鶴をお供えした。9月はほつま祭において東日本大震災復興応援活動として手作りのブックカバーや巾着など物品販売を行った。また金光教のハートフルトレッドプロジェクトに貢献した。6月、11月は天満屋イトーヨーカ堂福山店中央広場にて「絆：in福山」に参加した。東日本大震災復興支援の募金活動やイベント司会、福山のマスコット ローラちゃんに扮するなど貢献した。10月には浅口市社会福祉協議会主催の「赤い羽根街頭募金」（金光駅、マルナカ金光店）に参加した。11月には「佐藤信一氏東日本大震災写真展」を正面玄関にて開催した。

#### 《歴史研究同好会》

今年度より高校3年生6名、1年生3名によって設立された。7月、金光教芸備教会の佐藤先生が調査されている群集墳の整備活動を手伝った。同じく7月、浅口市周辺にある古墳や史跡を探索した。9月にはその結果をほつま祭で展示発表した。

#### 《花道同好会》

毎週水曜日に宗教教室で兼信先生の指導の下稽古をしている。

### 表紙の言葉

中2 中塚 桃花

「小鳥来る 話となりて 加はりぬ」

この俳句を最初に読んだ時、意味がよく分かりませんでした。でも、この俳句を版画で表現したいという思いが強くなり、この俳句にすることに決めました。

しかし実際、よく分からない俳句を表現するのは難しかったです。だから何回も意味を想像して、版画に仕上げることができました。版画を彫って思ったこの俳句の意味は、寒い地域から来た渡り鳥達が寒そうに会話をしているのを見て、自分もその会話に入りたくなったという感情を表しているのではないかなと思えました。

星野立子さんが詠む俳句はさりげない表現で対象をとらえています。その繊細な感性が生んだ素晴らしい俳句だからこそ、こうして現代まで受け継がれているのだと思います。俳句を、私たちの後世へ伝えていきたいです。



# 学園だより

**終業式** 高3は7月18日に、その他の学年は27日、1学期終業式が行われた。式後、部活動での県大会上位入賞生徒及び中国大会出場生徒の賞状伝達式と全国大会出場生徒の壮行会も併せて行った。

**留学生来校** 7月17日～27日、国際ライオンズクラブの依頼を受け、イタリアより留学生エリサさんを高校に受け入れた。また、10月3日～10日、倉敷市と姉妹都市のニュージブランドのクライストチャーチ市よりトッド君を中学校へ受け入れた。

**特別授業・補習** 中1から高2が7月22日～27日まで特別授業を、高3は補習を実施した。また後期の特別授業(宿題テストを27～28日に実施)を8月24日～29日まで、高3は補習を同様に行った。**個別面談** 中高の全クラスで行われた。1学期を振り返り、夏休みの過ごし方や進路選択等について個別に懇談を実施した。

る実り多き研修会となった。

**特別授業・課題テスト** 8月24日から28日まで、中1から高2の後期特別授業が行われた。8月29日・30日・9月1日には宿題テストが実施された。

**始業式** 9月1日、中高合同で2学期の始業式が行われた。校長式辞の後、生活課からの諸注意、生徒会課から夏休み中の部活動及び生徒活動の表彰があった。

**教育実習** 9月1日から13日あるいは19日までの期間、卒業生3名が2週間または3週間の実習を行った。

**街頭交通指導** 9月1日から10日まで教員が通学路に立ち、交通安全・交通マナーについての指導を行った。また、21日から30日まで「秋の交通安全県民運動」に合わせて指導を行った。

**進路委員会** 9月8日、18日、高3の先生が中心となって、指定校推薦の校内選考を行い、大学への推薦者を決定した。

**ほつま祭開催** 9月12日、13日、「Peace & Happiness ～幸せと平和は共にある～」をテーマに創立121年目のほつま祭が開催された。オープンスクール(両日開催)や友愛セール(日曜日)も多くの参加者

施した。

**オープンスクール** 7月26日、PART1として第17回目の一日入学が行われ、小学生や中学生および保護者を合わせて1481名の参加があった。授業体験や部活動体験を通して、金光学園での生活の一部を楽しく体験した。また、9月12・13日、PART2のほつま祭では約120名の小学生が参加した。10月3日、PART3の中学体育会はくすだま割りに参加した。

**東京研修** 7月30日～8月2日にかけて、中学生10名、高校生13名(計23名)教員3名で、東京研修が行われた。初日、社長をされている卒業生のご厚意で、月島食品工業を訪問した。2日目は、卒業生の案内で午前中に東京大学を午後から国会議事堂とオーストラリア大使館を見学した。最終日は上野公園で自主研修を行った。

**SSH宿泊研修** 8月4日～6日、数学科の田中誠先生、瀬戸信貴先生、理科の森下美穂先生、村山真生先生の引率で、中1の生徒16名、中2の生徒6名、中3の生徒7名、高1の生徒14名、高2の生徒3名(計46名)が京都大学を訪問した。

で賑わいを見せた。

**霊地親睦の集い** 9月20日、霊地各機関対抗の球技大会(バレーボール)が行われ、学園教職員が参加した。親睦を深めた。

**高校体育会** 9月28日、延期になっていた高校体育会が秋空のもと、ラッドフォードカレッジの皆さんの参加と共に、華やかに行われた。

**教祖生誕前夜奉祝行事** 9月28日、例年のように金光駅から本部境内まで教祖の生誕を祝う提灯行列が行われ、学園教職員とラッドフォードカレッジの先生も参加し、学園御輿を担ぎ行列を盛り上げた。

**塾対象入試説明会** 9月29日、午前中2時間は全学年全クラスを授業公開し、その後の全体会では平成27年度の中学・高校入試などについて説明を行った。

**高校進学懇談会** 9月30日、公立中学校の先生方を対象に平成27年度高校入試の説明等を行った。**文系探究Ⅱ国際化中間発表会** 10月2日、高2文系探究クラスの国際化中間発表会が開催された。水問題・教育ゼミ、果樹栽培・ジーンズゼミ、No.1岡山ゼミ

りSSH全国大会を見学したりして研修をした。

**春川女子高校姉妹校交流** 8月20日～24日、佐藤正俊副校長、鈴木公子先生、久野恵理子先生の引率で、生徒15名が春川女子高校を訪問し第6回の交流を行った。

**金光学園杯小学生招待バレーボール大会** 9月6日、第13回のバレーボール大会が小体育館で行われた。11チーム(選手約150名)の参加があり、レベルの高い熱戦が繰り広げられた。

**教職員夏季研修** 8月20・21日、全教職員が参加して28回目の夏季研修が行われた。初日は谷口哲也先生(河合塾 教育研究部部長)から「大学入学者選抜改革と中高のアクティブラーニング型授業」、野瀬 重人先生(岡山理科大学理学部講師)から「SSHの取り組みと今後の科学技術教育の方向について」というテーマで講演を聴き研修した。その後進路課、教務課、SSH推進PTからの基調報告を受けて、8グループに分かれて、グループ討議をした。2日目は前日からのグループ討議を深め、全体会の中でそれらの報告会を持った。2日間に渡

の3つに分かれて、英語でプレゼンテーションを行った。参加者にオーストラリアからのメリッチカレッジの生徒や京都アメリカ大学コンソーシアムの留学生を迎えた。今後に向けての課題が明らかになり生徒にとっては励みになる発表会になった。

**サイエンスチャレンジ強化合宿** 10月2日～4日、サイエンスチャレンジ2015に向けての合宿を大阪大学で実施した。参加生徒15名(高1・7名、高2・8名)引率教員は友田勝己先生、中島寛先生、小橋聖里奈先生、滝澤有美先生、佐藤径先生、角南佑典先生。中和滴定講義、実習や科学トライアスロン実習や留学生との交流等、実り多い研修となった。

**高2大祭奉仕** 10月6日実施予定であったが、今回本部の行事と重なったため、中止となった。

**進路学習** 10月10日、中3は高校からの学習活動に備えて進路適性検査を実施した。10月25日、中2は講師に卒業生の遠藤寛子氏を招いて「コミュニケーションを楽しもう」と題して、中学校生活の後半の過ごし方を進路面から考えた。高1は10月の第4週、クラスごとにパソコ

ンを利用して大学での学びについて調べ学習を行った。また、高2は11月にクラスごとに個人の希望に合わせて各大学の講義を視聴する機会を持った。(これら高校の学習は昨年までの大学による学部・学科説明会が変更され計画されたもの)  
**進路講演** 高2は10月2日、香川大学の山崎裕正先生による進路講演「自らの未来を拓く進路を考え、合格へのアプローチを知る」を、高1と保護者は10月9日にベネッセコーポレーションの荒武遼氏による講演「希望進路実現に向けて」をそれぞれ聴いた。

**中学体育会** 10月3日、晴天に恵まれ、中学体育会が開催された。特に華やかな踊りやマスケットが兄弟学級の団結力を示した応援合戦に彩りを添えた。

**高3大祭参拝** 10月7日、心の教育の一環として、高三生徒全員が金光教本部での生神金光大神大祭に参拝した。

**アメリカから大学生来校** 10月2日、浅口市国際交流協会が主催する京都アメリカ大学コンソーシアムの留学生が来校し、文系探究国際化発表会に参加した。

**金光学園杯小学生卓球大会** 10月12日、第14回の卓球大会が小体育館で行わ

れた。男女17チーム(約107名)の参加があり、シングルスで男女別に優勝杯を競い合った。

**性教育** 7月22日、公設国際貢献大学校専任講師の内尾京子先生から高2を対象に「責任ある性」をテーマに性教育を行った。中1は11月10日にDVD「正しく知る！二次性徴Q&A」「男女交際Q&A」を見て感想文を書き、11月20日に男女の身体の相違を理解し、お互いに尊重することを学んだ。

**教育相談保護者会** 10月17日、安原こずえ先生を講師に、2名の保護者と教育相談員とで交流会が行われた。

**飯ごう炊さん** 10月13日、中1は通照山の藤波キャンプ場で飯ごう炊さんを行った。中2での教育キャンプの予行演習を兼ねて班毎にカレーを作り、深まり行く秋の中、楽しいひとときを過ごした。

**心の教育** 10月23日に中1は金光道晴校長から「金光学園の歴史を学ぶ」と題した話を聴き、創立記念式を前にして金光学園の精神を学んだ。

**中学・高校入試模擬テスト** 10月24日、来春の中学校入試を受験する小学校6年生を対象に、11月1日、来春の高等学校

入試を受験する中学3年生と学園の中学3年生(希望者)を対象に模擬テストを行い、多くの受験生が本番さながらに挑戦した。また高校の推薦入試受験希望者には面接を行った。その後、入試説明が行われ、それぞれに平成27年度入試についての説明を行った。

**読書会** 高1は11月6日に、高2は10月9日に、中3は11月27日に、中2は11月20日に、中1は11月24日にそれぞれ学年で希望の本を選び、各グループに分かれて、意見交換をした。

**人権教育** 中2は11月10日にビデオ「ひめゆりの塔」を見て感想文を書き、話し合いをした。また、中3は10月17日にビデオ「どんぐりの家」を見て、感想文を書いた。

**教科担当者会議** 中1から中3まで、日頃の授業の様子や中間考査の結果についての情報が交換され、個々のすぐれた点や改めたい点が指摘検討された。

**ロードレース** 11月11日、中学校全体のロードレース大会が行われた。男子は4キロ、女子は2キロのコースをそれぞれ力走した。

**EUがあなただの学校にやってくる** 11

月11日、ドイツ連邦共和国大使館よりモニカ・マリア・ゾンマー参事官が来校され、高1探究クラス、高2文系探究クラス、希望者を対象に7時間目に大講義室にて講演を行った。

**探究Ⅱ課題研究発表会** 11月19日、今年度の金光学園教育研究会(課題研究合同発表会)が開催された。高2探究クラスの生徒が研究している内容について、文系・理系ゼミが合同で日本語のポスター発表を行った。各大学の助言の先生方より貴重なアドバイスを頂き、実り多き発表会となった。

**創立121年記念式** 11月13日、創立121年の記念式がほつま体育館で厳かに挙行された。今年は木村 正明氏(フアジャーノ岡山代表)の記念講演が行われました。「岡山に、恋をしよう」という演題で講演していたのだ。

**里見川環境改善プロジェクト** 7月23日に予定されていた第1回川教室は、台風による増水のため、中止となった。第2回川教室は11月7日に開かれ30名が参加した。前半は「里見川魚図鑑作り」。魚の形や色、口やひれの形を観察しどのような暮らしをしているのか考えた。また

後半は「算数を使って川を知ろう」をテーマに初歩的な統計学に触れ意見交換を行った。

**金光学園サイエンスチャレンジ** 11月23日に小学4〜6年生を対象に開催した。(42名参加) パターンブロックとフィールドワークの2つの競技に、4人1組で取り組んだ。

**サイエンスチャレンジ岡山2015** 10月24日、きびアリーナで開催され、昨年に引き続き本校からも科学系部活動を中心に2チームが参加した。筆記試験と3つの実技競技(化学・物理部門、生物・地学部門、工学部門)が行われた。

**お祝い** 高校の横山俊則教頭には私学協会功労者表彰を受賞され、お慶び申し上げます。ベンジャールヴィス先生には8月13日に次女が御誕生、土井康広先生には8月9日ご結婚お慶び申し上げます。

**お悔やみ** 小川恭史保護者会会長の御尊父には6月30日に、谷野一忠先生の御尊父には7月9日に、大庭

敏行先生の御実兄には7月14日に、高1大野侃那君の御尊父には7月25日に、山本雅夫夫人評議員及び萩原啓子先生の御母堂には8月1日に、守永一彦法人理事の御尊父には8月3日に、旧職員内田愛子先生には8月5日に、高3河原大悟君の御母堂には9月23日に、旧職員香西士郎先生には11月6日に、旧職員花田尚三先生には11月10日に、旧職員小野磨君の御尊父には11月27日に、高3三宅爽広君の御尊父には11月28日に、高3中塚成美さんの御母堂には12月9日に、それぞれご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

## 北海道コース

## 高2 修学旅行



## オーストラリア コース



## シンガポール・ マレーシアコース

## 教室の窓から

10月24日に、科学に興味関心が高い中学生や高校生向けにサイエンスチャレンジというイベントが行われた。これは、団体で協力して科学技術・理科・数学などにおける複数分野の競技に取り組む事とおし、科学に関する更なる興味関心の高揚及び学力の向上を図ることが目的である。ここで、出題される問題は、県内の高校教諭が知恵と知識を出し合って作る。

化学の分野からは中和滴定が出題されたが、ただの滴定ではない。食品中の酸のピタミンCの量を測定するという問題だ。普段口にしているもの、どんな物質が含まれているのかを確かめるのは斬新だ。

生物・地学の分野からは、実際に野外で問題の看板を見つけて解いていくフィールドワークが出題された。その中でも、アカハライモリの手足の本数を観察する問題は、実際にイモリを触ってみなければならぬ。この問題は、昔より生き物と触れ合うことが少なくなった現代の子供たちに、ぜひ経験してほしいという想いから出題された。ちなみに、昨年はザリガニだった。

生き物には細菌が付着しているので、触らせないというのは間違っている。実際に見るだけではなく触ってみることで記憶に残りやすくなる。

最終競技の割りばしトライアスロンは、一見簡単そうに見える。しかし、70分間で鉄砲、投てきの発射装置的、車の3種類を割りばしと輪ゴムのみで作らなければならない。また、動かす際にはトリガー（引き金）の部分のみ手で持つことができる。強い力を発揮できることや、バランスを保てることなどをクリアするには、様々な工夫が必要だ。特に、車はどんな車輪を作ることが勝負になる。割りばしを丁寧に短く切って輪ゴムで円形に留めていくチームや、何本か束ねてキャタピラのような構造を作るチームがあった。効率性・独創性・機能性を考えて時間配分と材料の配分をするのは、どの学校も頑張っていた。

理系は堅いイメージがあるが、アリーナの中で汗をかきながら競技をこなす姿は、スポーツ選手のようなだった。このイベントに参加した高校生は科学に関する更なる興味関心をもてたはずである。

次の課題は、科学に興味あまりない学生にもこのことを知ってもらうことだ。なんか楽しそうだな」と思ったら是非参加してほしい。

## 編集後記

今年、4回目の読書会に参加した。本校の読書会は40年以上の歴史があるが、会が充実したものになるかどうかは、事前の準備や生徒の意見交換だけでなく、本の選定でも大きくかわる。「サクラ咲く」の選定での読書会では、司会の生徒と打ち合わせが十分でなかったが、会の冒頭で「君の臍臓をたべたい」という本を推薦した。タイムが衝撃的であるが、臍臓の病気のため、余命いくばくもない高校生（彼女）の「生への問いかけ」がテーマの1つ。すでに読んでいる生徒もいて、会スタート時の程よいアイスブレイクになった。もちろん司会・副司会及びその他、参加者のおかげで話し合いも楽しく進んだ。

平成27年12月15日印刷

12月21日発行

編集者

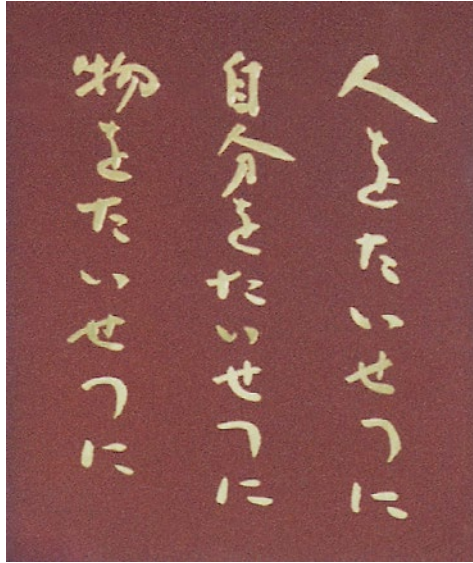
金光学園やつなみ保護者会  
やつなみ編集部

印刷所

倉敷市船穂町船穂二〇九五一―一  
玉島活版所

発行所

浅口市金光町古見新田一三五〇  
金光学園内  
金光学園やつなみ保護者会



◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

.....  
◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail [info@konkougakuen.net](mailto:info@konkougakuen.net)